岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第532集

上町（かみまち）遺跡発掘調査報告書

馬淵川沿岸（一期）農業水利事業関連遺跡発掘調査

２００８

農林水産省東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所

（財）岩手県文化振興事業団

上町遺跡発掘調査報告書

馬淵川沿岸（一期）農業水利事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、馬淵川沿岸（一期）農業水利事業に関連して平成19年に発掘調査された二戸市上町遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代の陥し穴・土坑などの遺構を検出した他、遺物包含層から縄文時代晩期中葉の土器・石器などの遺物が出土し、該期の良好な資料を得ることができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました農林水産省東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所、二戸市教育委員会、二戸市埋蔵文化財センターをはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成20年10月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　武　田　牧　雄

例　　言

1　本書は、岩手県二戸市金田一字新田野26－７ほかに所在する上町遺跡の発掘調査成果の報告書である。

2　本遺跡の調査は、馬淵川沿岸（一期）農業水利事業に伴い、農林水産省東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所の委託を受けた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施したものである。

3　本遺跡の遺跡番号、遺跡略号は以下のとおりである。

　遺跡番号：IE89－2346／遺跡略号：KM－07

4　野外調査面積及び調査期間、室内整理期間は以下の通りである。

　調査面積：180㎡

　野外調査期間：平成19年４月９日～５月14日

　室内整理期間：平成20年２月１日～３月31日

5　野外調査は川又　晋・北田　勲が担当した。室内整理は川又が担当した。

6　本書の執筆は「Ⅰ　調査に至る経過」については東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所に原稿を依頼した。その他の執筆・編集は川又が行った。

7　各種鑑定・分析は以下の機関に委託した。

　基準点測量・・・・・・・・株式会社柳平測量設計

　航空写真撮影・・・・・・・東邦航空株式会社

　火山灰分析・・・・・・・・株式会社パリノ・サーヴェイ

　石材鑑定・・・・・・・・・花崗岩研究会

8　本書で用いる座標値は新座標（世界測地系）に準拠している。レベル高は海抜である。

9　本報告書で使用した地図は、国土地理院発行２万５千分の１地形図を使用した。

10　本書で使用した土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版　標準土色帖」によった。

11　遺物番号は連番で、写真図版と対応している。

12　本書で使用した遺構種別による略号は以下の通りである。

　ＳＫ：土坑・陥し穴　Ｐ：ピット（柱穴状土坑）

13　野外調査及び本報告書の執筆にあたり、二戸市教育委員会、二戸市埋蔵文化財センターから多大なご協力をいただいた。

14　出土遺物及び調査に関わる諸記録は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　遺跡周辺の環境

1　位置と立地 …… 3
2　周辺の地形 …… 3
3　周辺の遺跡 …… 4
4　基本層序 …… 6
5　調査方法 …… 6
6　調査経過 …… 11

Ⅲ　検出遺構と出土遺物

1　検出遺構 …… 12
2　包含層出土遺物 …… 13

Ⅳ　まとめ …… 33

Ⅴ　自然科学分析

1　上町遺跡における火山灰分析調査報告 …… 39

報告書抄録 …… 67

図版目次

第１図　岩手県全図…… 1
第２図　遺跡の位置…… 2
第３図　周辺の遺跡…… 5
第４図　地形分類図…… 7
第５図　調査区全体図…… 8
第６図　遺構配置図…… 9
第７図　基本層序…… 10
第８図　遺構（１）ＳＫ01～03 …… 16
第９図　遺構（２）ＳＫ04～06 …… 17
第10図　遺構（３）柱穴状土坑…… 18
第11図　土器（１）…… 19
第12図　土器（２）…… 20
第13図　土器（３）…… 21
第14図　土器（４）…… 22
第15図　土器（５）…… 23
第16図　土器（６）…… 24
第17図　土器（７）…… 25
第18図　土器（８）…… 26
第19図　土器（９）…… 27
第20図　土器（10）…… 28
第21図　石器（１）…… 29
第22図　石器（２）…… 30
第23図　石器（３）…… 31
第24図　石器（４）…… 32
第25図　グリッド別土器出土重量…… 33

表　目　次

第１表　周辺の遺跡…… 4
第２表　グリッド別土器・剥片出土重量…… 34
第３表　土器観察表…… 35
第４表　石器観察表…… 38

写真図版目次

写真図版１　航空写真（１）…… 43
写真図版２　航空写真（２）…… 44
写真図版３　遺跡全景…… 45
写真図版４　基本層序…… 46
写真図版５　遺構…… 47
写真図版６　遺物出土状況（１）…… 48
写真図版７　遺物出土状況（２）…… 49
写真図版８　遺物出土状況（３）…… 50
写真図版９　遺物出土状況（４）…… 51
写真図版10　検出状況（１）…… 52
写真図版11　検出状況（２）…… 53
写真図版12　土器（１）…… 54
写真図版13　土器（２）…… 55
写真図版14　土器（３）…… 56
写真図版15　土器（４）…… 57
写真図版16　土器（５）…… 58
写真図版17　土器（６）…… 59
写真図版18　土器（７）…… 60
写真図版19　土器（８）…… 61
写真図版20　土器（９）…… 62
写真図版21　石器（１）…… 63
写真図版22　石器（２）…… 64
写真図版23　石器（３）…… 65
写真図版24　石器（４）…… 66

Ⅰ　調査に至る経過

上町遺跡は、「国営馬淵川沿岸農業水利事業　左岸用水路付帯施設（その３）工事の内、金田一給水管路工事」の施行に伴いその事業区域内に埋蔵文化財が存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

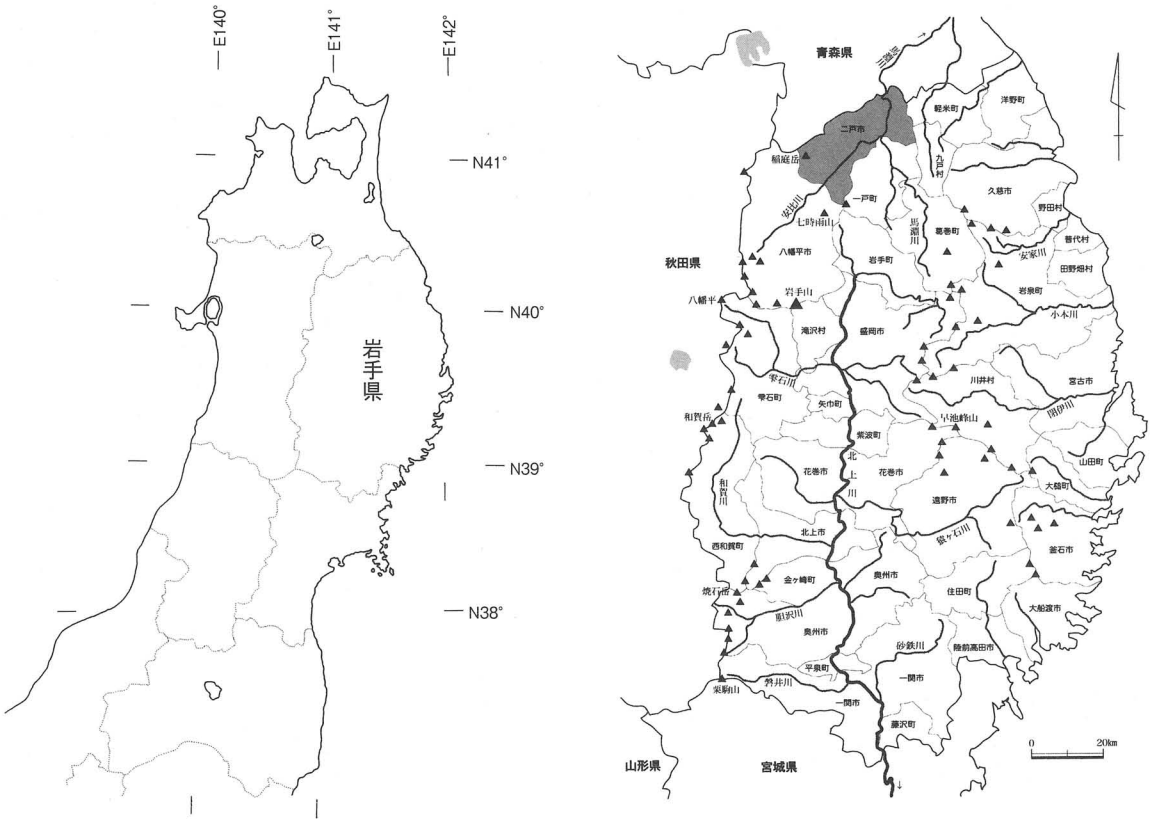
金田一給水管路は一級河川馬淵川から米沢揚水機場のポンプアップにより取水し、左岸幹線用水路から米沢吐出水槽を経由し野々上ファームポンド手前から分水される金田一支線用水路の末端で、二戸市金田一地内約20haの畑にかんがいするためのパイプラインである。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成18年７月18日付18馬淵第368号「馬淵川沿岸農業水利事業実施計画における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

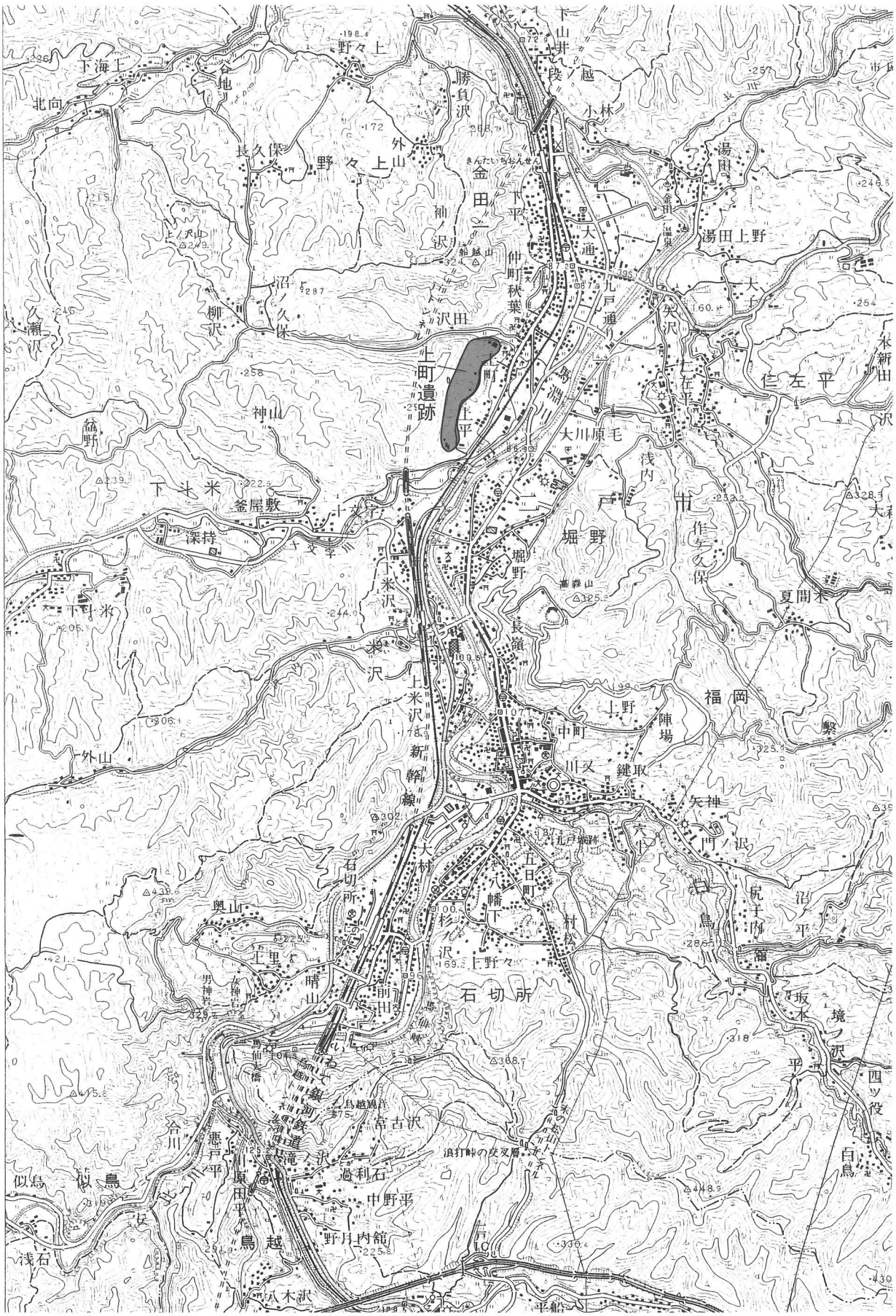
依頼を受けた岩手県教育委員会は平成18年９月20日に試掘調査を実施し、工事に着手するには上町遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成18年10月17日付教生第978号「馬淵川沿岸農業水利事業実施計画における埋蔵文化財の試掘調査について（通知）」により当事業所へ回答してきた。

その結果を踏まえて当事業所は岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて平成19年４月２日付で財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することになった。

（東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所）



第１図　岩手県全図


上町遺跡
上平
下斗米
釜屋敷
深持
下斗米
下米沢
米沢
上米沢
新幹線
外山
堀野
長嶺
上野
中町
川又
鍵取
福岡
矢神
門ノ沢
大村
石切所
奥山
晴山
前田
上野々
石切所
村松
八幡下
五日町
大通
九戸通
湯田上野
大川原毛
浅内
作矢久保
夏間木
仁左平
大子
矢沢
仲町秋葉
金田
外山
野々上
長久保
勝負沢
小林
湯田
下山井
段ノ越
上海上
北向
神山
柳沢
沼ノ久保
久瀬沢
盆野
白鳥
坂本
境ノ沢
西ツ役
白鳥
似鳥
似鳥
合川
悪戸平
鳥越
八木沢
中野平
野月内舘
過利石
浪打峠の交叉層
宮古沢
鳥越観音
鳥越観音
男神岩
女神岩

第２図　遺跡の位置

Ⅱ　遺跡周辺の環境

1　位置と立地（第1・2図）

上町遺跡は、ＩＧＲいわて銀河鉄道金田一温泉駅の南約２㎞、二戸市役所の北東約３㎞に位置する。上町遺跡は、国土地理院発行の５万分の１地形図「一戸」NK54－18－11及び、２万５千分の１地形図「陸奥福岡」ＮＫ54－18－11の図幅中に含まれ、北緯40度18分32秒、東経141度17分51秒付近に位置し、馬淵川左岸の河岸段丘上に立地する。

遺跡の所在する二戸市は、岩手県の北部に位置し、平成18年１月に旧・二戸市と二戸郡浄法寺町の合併により成立した。市域総面積は420.31㎢、西に八幡平市、南に一戸町、東に九戸村・軽米町と境を接し、北は青森県三戸町・南部町・田子町等との県境を接する。平成17年10月時点で総人口31,480人、人口密度74.9人/㎢、岩手県北においては沿岸部の久慈市と並ぶ内陸部の中心市である。二戸市福岡付近では年平均気温10℃前後と県内でもかなり冷涼な地帯にあたり、年平均降水量は1000㎜程で、県平均よりもかなり少ない。

2　周辺の地形（第4図）

本遺跡の所在する二戸市は、青森県との県境に、東を北上山地に、西を奥羽山脈に挟まれる形で位置し、中心を馬淵川が北流している。馬淵川は、北上山地北部（葛巻町多々良山）を源流とし、沢内川、安比川、十文字川等の支流を統合しながら青森県八戸湾に流れ込んでいる。緩やかに曲流するこの馬淵川によって、市内の石切所地区から金田一地区にかけて、数段の段丘と狭い沖積平野が形成されている。段丘群は、高位から仁左平・福岡・長嶺・米沢・堀野・中曽根といった段丘に区分されている。

段丘上には十和田火山群を起源とする噴出物が堆積しており、間欠的に堆積した火山灰は、地形面や地層を対比するための鍵層となっている。標高200～140mの仁佐平段丘上は、チャート・頁岩からなる礫層の上に高舘火山灰以上の火山灰をのせている。続く標高140～100mの福岡段丘は、火山灰流凝灰岩台地の性格を持ち、八戸火山灰（12,700±260ＢＰ）以上の火山灰が堆積する。米沢段丘は馬淵川東岸の中町段丘と西岸の堀野段丘に区分される。標高は110～100m、沖積段丘の古期面に相当し、南部浮石（8,600±250ＢＰ）以上の火山灰が堆積する。さらに低位の中曽根段丘は、中掫浮石（4,400±140ＢＰ）の堆積がみられるが、南部浮石は乗せない段丘であるとされている。

上町遺跡は、馬淵川西岸の福岡段丘上に立地する、南北約1,100m、東西約250mの細長い範囲である。遺跡の西側は丘陵地である。東側は下位の段丘面となり、市街地として利用されている。北方には沢田川、南方には十文字川が流れ、いずれも東流して馬淵川に合流する。遺跡範囲の大半は、畑地として利用されている。今回の調査区は遺跡の北側に位置する。調査区周辺は東向きの緩斜面で、標高は120～130mである。

3　周 辺 の 遺 跡（第3図）

二戸地区では、縄文時代から中近世まで、多数の遺跡が確認されている。これらの遺跡は、馬淵川とその支流の流域、特に馬淵川西岸に多く分布しており、段丘面では、米沢段丘と堀野・福岡段丘に多く立地している。遺跡の時代や時期は複合している場合が多く、そのほとんどが縄文時代と古代の複合遺跡である。

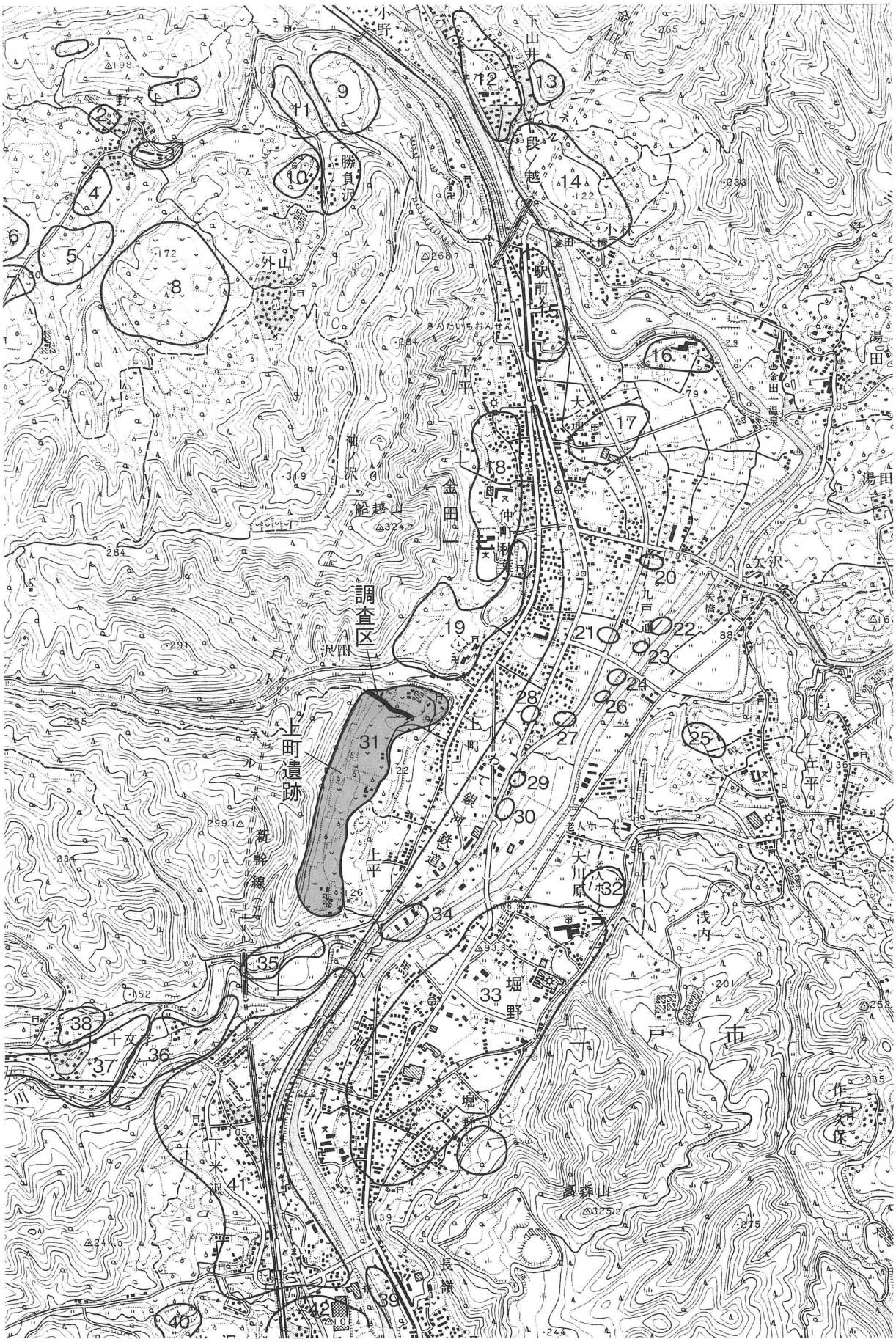
上位の福岡段丘上には、縄文・弥生・中世の複合遺跡の火行塚遺跡、縄文・古代・中世の複合遺跡である上里遺跡、中世の城館跡である佐々木館跡の遺跡が分布している。国の史跡指定を受けた中世の城館跡、九戸城跡はこの段丘上の馬淵川東岸に位置する。

下位の米沢段丘上には、長瀬遺跡群・家の上遺跡・荒谷遺跡・荒谷B遺跡・上村遺跡・下村遺跡・沢内遺跡・上田面遺跡など縄文時代と古代・中世の複合遺跡が多く分布している。

馬淵川対岸の堀野段丘上に位置する堀野遺跡は、縄文・古代の複合遺跡である。

No.	遺跡名	種　別	遺構・遺物	時　代
1	野々上Ⅱ	散布地	縄文土器	縄文
2	出張	集落跡	土師器	奈良･平安
3	野々上館	城館跡	堀切	奈良･平安
4	野々上Ⅲ	散布地	縄文土器	縄文
5	仏畑	散布地	縄文土器	縄文
6	林向	散布地	縄文土器	縄文
7	上の沢Ⅰ	散布地	縄文土器	縄文
8	上の沢Ⅱ	散布地	縄文土器	縄文
9	勝負沢Ⅰ	集落跡	土師器	奈良･平安
10	勝負沢Ⅱ	散布地	縄文土器	縄文
11	勝負沢Ⅲ	散布地	縄文土器	縄文
12	下山井	散布地	縄文土器	縄文
13	下山井館	城館跡		中世
14	段ノ越	散布地	縄文土器	縄文
15	駒焼場	集落跡	環状集落・鏑矢	平安
16	大釜	散布地	縄文土器（中期）	縄文
17	馬場	集落跡	土師器	奈良
18	秋葉	散布地	縄文土器	縄文
19	四戸城（金田一城）	城館跡	空堀・平場・土塁	中世末～近世
20	沖	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
21	八ツ長Ⅰ	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
22	八ツ長Ⅱ	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
23	八ツ長Ⅲ	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
24	八ツ長Ⅳ	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
25	戸花	散布地	縄文土器	縄文
26	荒田Ⅰ	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
27	荒田Ⅱ	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
28	荒田Ⅲ	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
29	荒田Ⅳ	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
30	上田面Ⅱ	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
31	上町	散布地	縄文土器	縄文
32	大川原毛	散布地	縄文土器	縄文
33	堀野	集落跡・祭祀跡	古墳・蕨手刀・竪穴住居・配石	縄文・古代
34	上田面	集落跡	方形周溝墓・住居跡・土師器・鉄製品	弥生・古代
35	海老田	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
36	細越	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
37	釜屋敷	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
38	十文字	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代
39	長嶺	散布地	縄文土器	縄文
40	佐々木館（稲村館）	散布地・城館跡	縄文土器・土師器・掘	中世
41	米沢	集落跡	縄文土器・土師器	縄文・古代
42	下村	集落跡	配石・住居跡	縄文・古代
43	堀野館	城館跡	空堀・平場・土師器	中世

第1表　周辺の遺跡


調査区
上町遺跡
外山
勝負沢
段越
小林
駅前
下平
金田一
仲町秋葉
船越山
袖沢
沢田
上平
新幹線
大川原毛
浅内
堀野
高森山
長嶺
湯田
矢沢
仁左平
十文字
作ヶ保
戸市

第３図　周辺の遺跡

4　基　本　層　序（第7図）

Ⅰ～Ⅸ層に大別している。Ⅰ層上面が現地表面である。Ⅰ層は、道路の表土・盛土で、砂利を主体とする。Ⅱ層は堅く締まる暗褐色土で、これも道路の盛土とみられる。Ⅰ・Ⅱ層は、近現代に形成された層である。Ⅲ層は十和田ａ火山灰層（約1,100年前）である。調査区西側の斜面から平坦部に至る傾斜変換点の周辺では比較的良好に堆積するが、東側では堆積はみられない。層厚は厚い所でも２cm程度で、断続的に堆積する。Ⅳ層は、Ⅳａ・Ⅳｂ・Ⅳｃ層に細分した。Ⅳａ層は黒色土で、白色粒子を全体に含む。この白色粒子は十和田ｂテフラであることが火山灰分析により判明している。Ⅳａ層は縄文時代晩期の遺物を最も多く包含する。Ⅳｂ層は黒褐色土。この層の上面が縄文時代晩期の生活面であったとみられる。Ⅳｃ層は暗褐色土で、下のⅤ層を起源とする中掫浮石（アワズナ）を含む。Ⅴ層は中掫浮石層（約5,500年前）の純層で、層厚は最大10cm前後である。Ⅵａ・Ⅵｂ層は南部浮石（ゴロタ）を含む黒色土で、Ⅵｂ層は南部浮石の混入量が多い。Ⅶ層は南部浮石層（約8,600年前）の一次堆積層である。

調査区内の標高は120～130mで、西側から東側へ行くにつれ標高が低くなる。西端から24グリッドまではやや傾斜があり、24グリッドから55グリッドにかけては平坦に近く、55グリッドで最も標高が低くなる。55グリッドから76グリッドまで緩やかに上がり、その東側は再び傾斜が急になる。

5　調　査　方　法

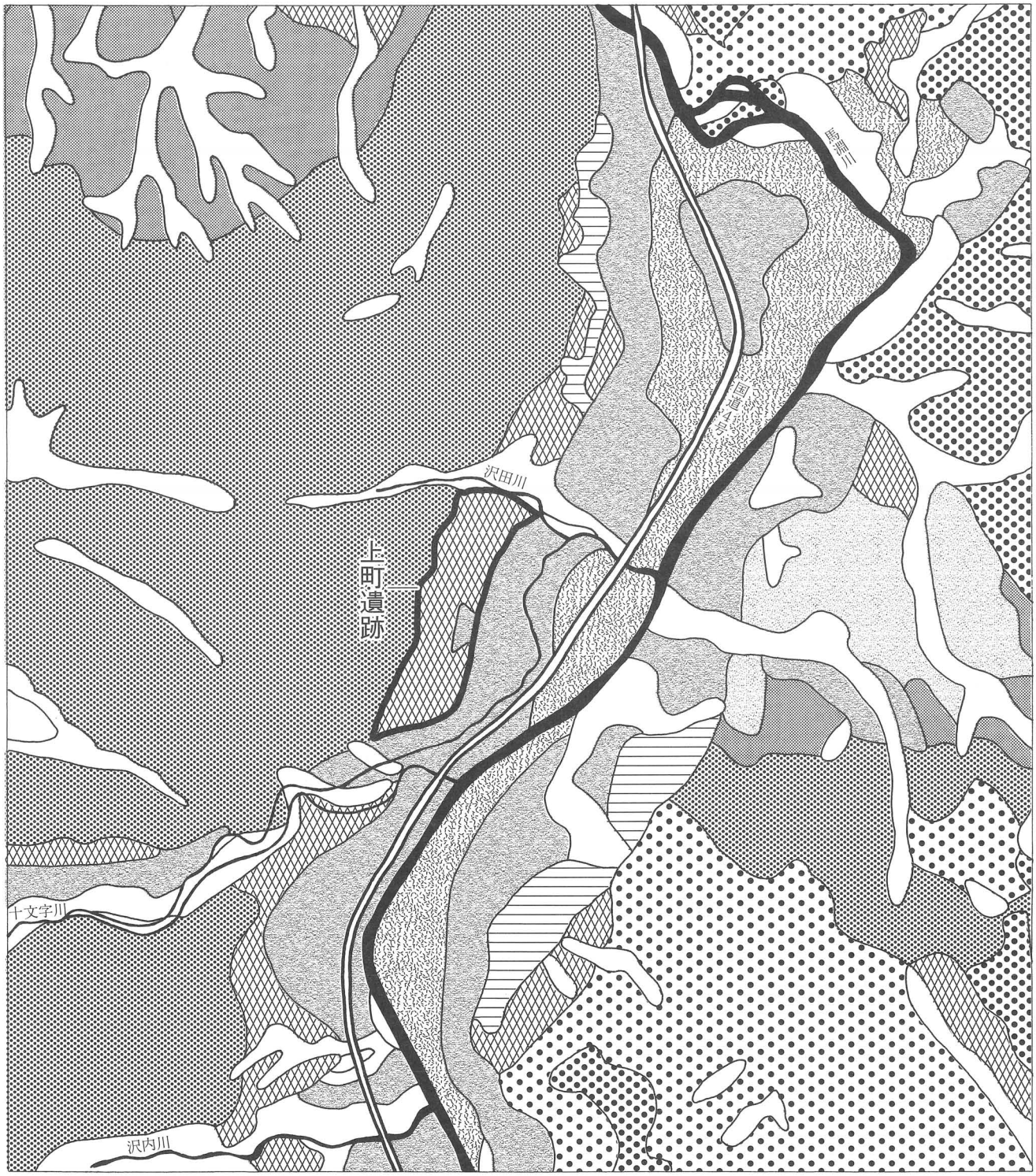
表土除去はバックホーを用いて行った。調査範囲が狭いことから、用いたバックホーは0.2㎥の小型の機種である。表土除去は、十和田ａ火山灰であるⅢ層上面までを目安に行なった。表土除去を行なった箇所から順次、人力による遺構検出を行なった。遺構の有無を確認し、遺構が確認されなかった箇所は下層へ掘り下げて検出、遺構が確認された場所は精査後に掘り下げ、再検出といった作業を繰り返した。最終調査面は、中掫火山灰層下のⅥａ層とした。

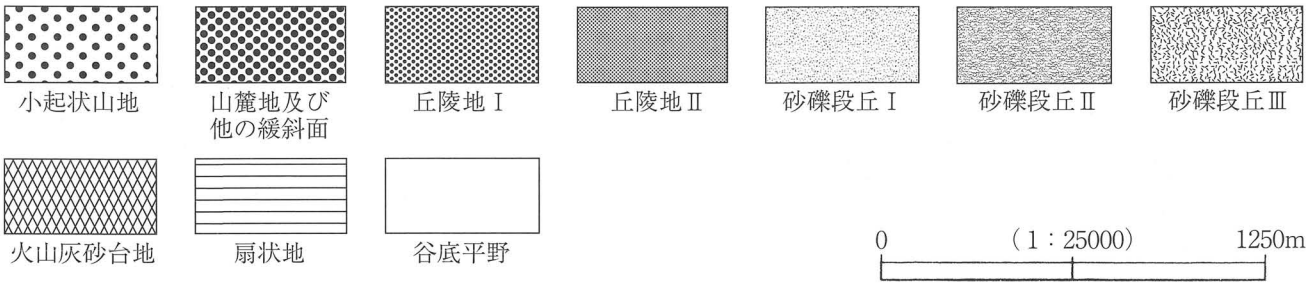
グリッドは、調査区の長軸方向がＸ系座標の方向と異なることから、任意の軸を基準として設定した。列方向を数字で１・２‥‥90、行方向をアルファベットでａ・ｂ‥‥ｊのように２ｍ毎に区切り、グリッド名は、１ａ・２ａ‥‥１ｂ・２ｂのように名付けた（第６図）。基準点はこのグリッドに沿うように打設した。基準点の座標値は表の通りである。遺物の取り上げについては、行方向の区切りを省略している。例えば、15グリッド出土と言えば、15ｂ・15ｃの２グリッド分をまとめたものを指す。すなわち、細長い調査区を２ｍ幅で区切ったものを遺物の取り上げ単位とした。

検出した遺構に対し、検出順に遺構名を付した。遺構名は、ＳＫ（陥し穴状遺構・土坑）、Ｐ（柱穴状土坑）などの略号を使用した。

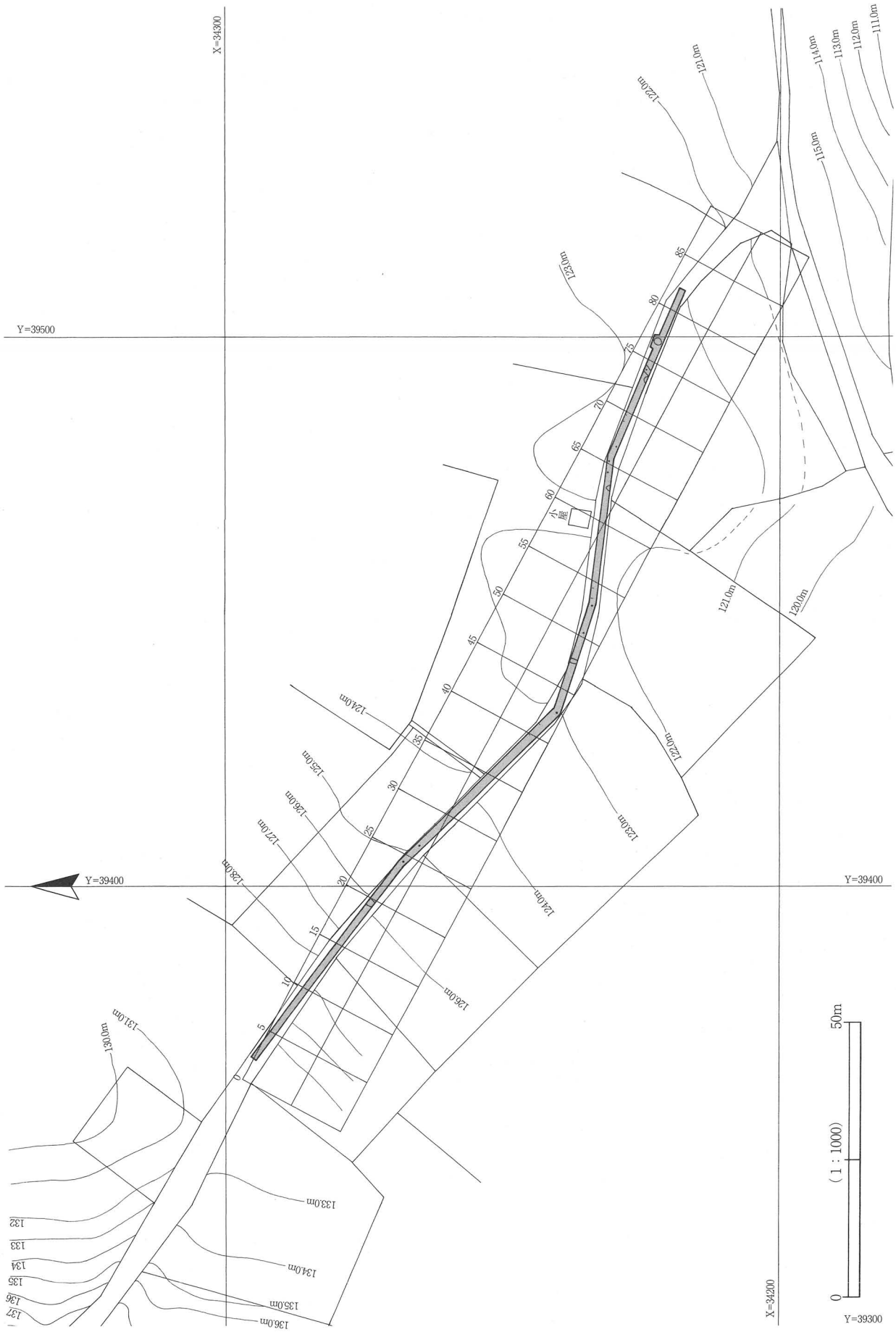
写真撮影は、６×７判中判カメラ（モノクロ）、一眼レフデジタルカメラを基本的に使用し、35㎜カメラ（モノクロ）を補助的に使用した。

断面図は、レベルを用いて水糸を張りそれを基準として行った。平面実測は水糸によるメッシュを張るのが困難なため、業務委託で打設した基準杭をもとに、すべて光波を用いて測量を行なった。

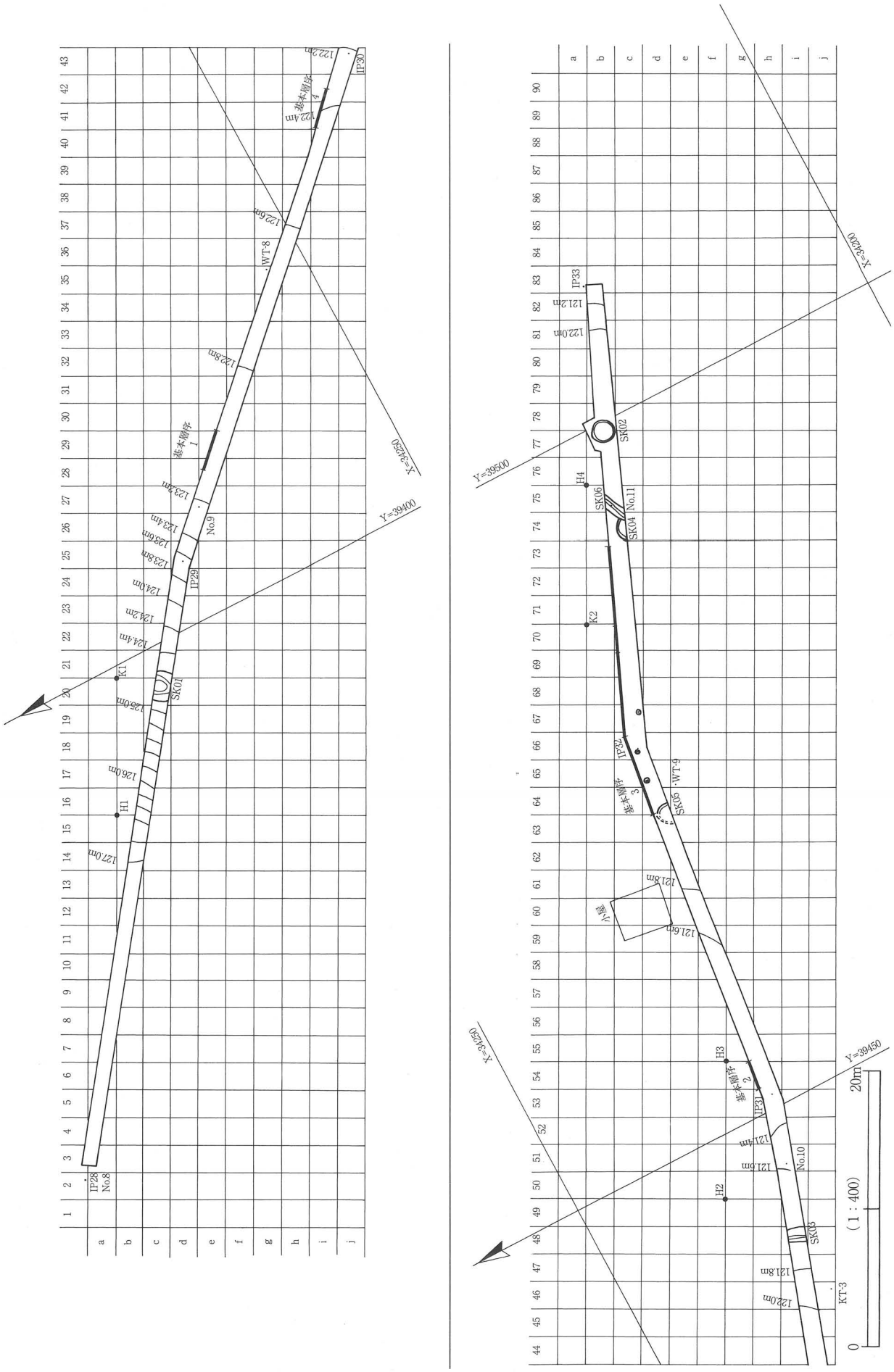

馬淵川
沢田川
上町遺跡
十文字川
沢内川


小起状山地
山麓地及び他の緩斜面
丘陵地Ⅰ
丘陵地Ⅱ
砂礫段丘Ⅰ
砂礫段丘Ⅱ
砂礫段丘Ⅲ
火山灰砂台地
扇状地
谷底平野
0
(1：25000)
1250m

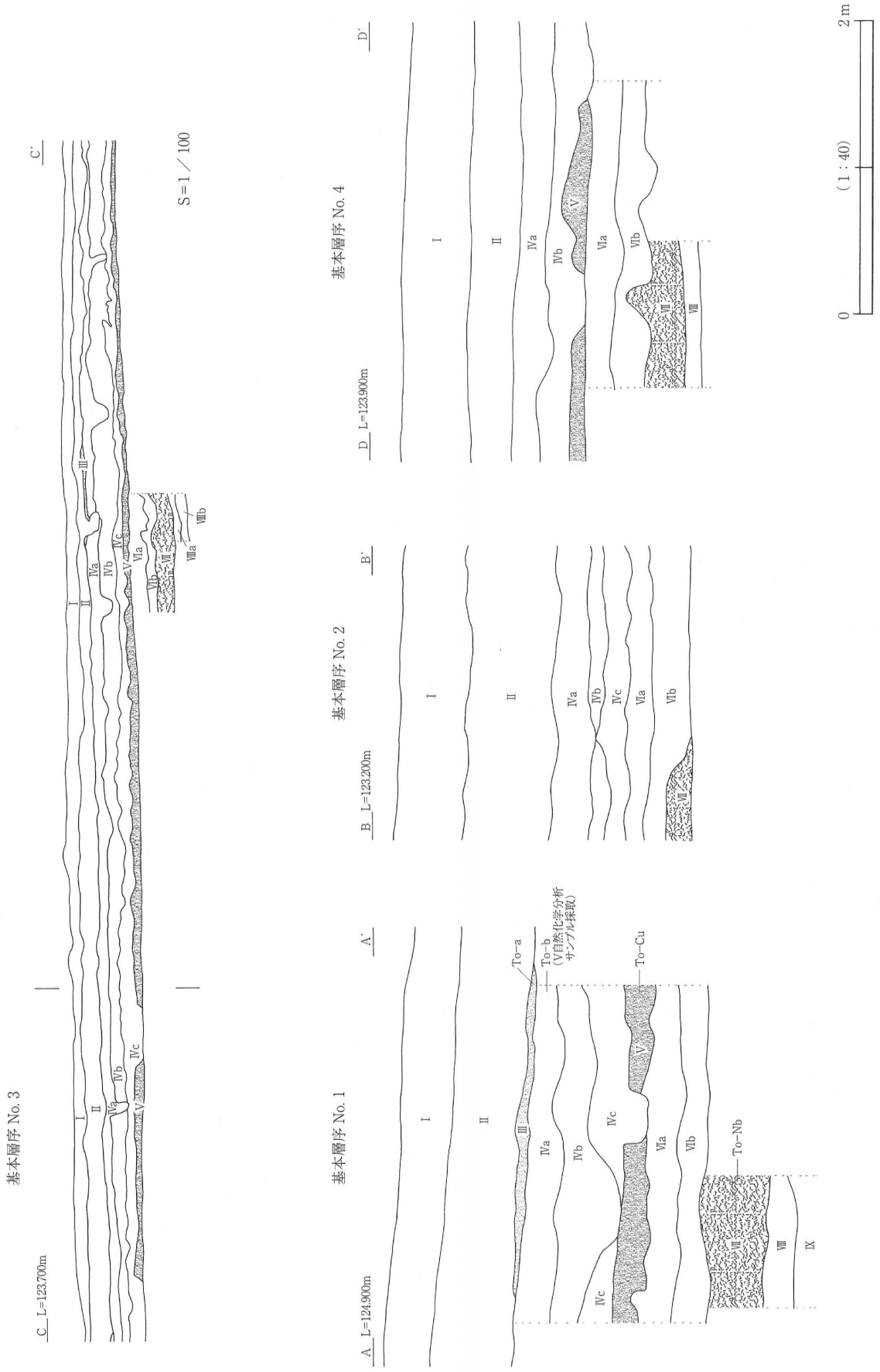
第４図　地形分類図


X=34300
Y=39500
Y=39400
Y=39400
X=34200
Y=39300
小屋
0
5
10
15
20
25
30
35
40
45
50
55
60
65
70
75
80
85
111.0m
112.0m
113.0m
114.0m
115.0m
120.0m
121.0m
122.0m
123.0m
124.0m
125.0m
126.0m
127.0m
128.0m
130.0m
131.0m
132
133
134
135
136
137
133.0m
134.0m
135.0m
136.0m
0
50m
(1 : 1000)

第５図　調査区全体図


IP28
No.8
IP29
No.9
IP30
IP31
No.10
IP32
IP33
SK01
SK02
SK03
SK04
SK05
SK06
No.11
WT-8
WT-9
KT-3
H1
H2
H3
H4
K1
K2
基本層序 1
基本層序 2
基本層序 3
基本層序 4
小屋
X=34250
Y=39400
Y=39500
Y=39450
X=34200
0
20m
(1：400)

第６図　遺構配置図


基本層序 No. 3
C L=123.700m
C'
S=1／100
基本層序 No. 1
A L=124.900m
A'
To-a
To-b
(V自然化学分析
サンプル採取)
To-Cu
To-Nb
基本層序 No. 2
B L=123.200m
B'
基本層序 No. 4
D L=123.900m
D'
0
(1：40)
2m

第７図　基本層序

6　調　査　経　過

平成19年４月９日、資材を搬入し調査を開始した。調査原因はパイプライン工事に伴うもので、調査区は道路（法定外道路）下の幅約１ｍ、全長180ｍの細長い範囲である。この道路は砂利敷で、畑へ至るための通路として利用されており、調査開始前に道路使用許可を申請した。

調査にあたる最大の問題点は、この道路の通行を確保しつつ調査を進めなければならないことであった。掘削すれば通行が不可能となるため、調査区脇の畑地に調査区沿いに７ｍの幅で借地を行なった。この部分を仮設道路・排土置き場として利用した。

４月10日に、バックホーによる表土除去を開始した。Ⅲ層上面までを目安とし、基本的に調査区北側から南側へ向かって進めていった。掘削した廃土はそのまま調査区脇の借地部分に置いて行った。調査区北端部と南端部は、脇に仮設道路が設置できなかったため調査を後回しにした。この部分については後に表土除去を行ったところ、遺構が検出されなかったためすぐに埋め戻した。４月12日に基準杭打設を行った。

その後、人力による作業で、検出・下層への掘り下げを繰り返すことになるが、地表面から最終検出面までの深さは、深いところで約1.70ｍとなった。一部の地点については、その下のⅦ層上面、もしくはそれ以下の面までトレンチを掘り下げ確認を行っている。掘削深度が深くなると調査区脇に盛り上げた廃土の山も高くなり、排土の搬出が非常に困難となった。

調査終了間際の５月８日に航空写真撮影を行なった。５月９日に、県教育委員会生涯学習文化課による終了確認を行った。その後、トレンチを増やし、Ⅵａ層以下の確認を可能な限り行なったが、遺構・遺物とも検出されなかった。５月10日からバックホーによる埋め戻しを開始し、５月14日まで埋め戻しを行なった。埋め戻しと並行して、仮設道路・残土置き場として利用した畑部分の石拾いなどを行い、調査前の状態に戻した。

５月14日に資材を搬出し、すべての作業を終了した。

基準点名	ｘ座標	ｙ座標	標　高
K1	34276.200	39399.076	126.077
K2	34229.698	39487.606	123.273
H1	34280.850	39390.223	127.579
H2	34240.376	39445.773	123.012
H3	34235.726	39454.626	123.021
H4	34225.048	39496.459	123.542

上町遺跡基準点一覧表（座標値は世界測地系）

Ⅲ　検出遺構と出土遺物

1　検　出　遺　構

検出遺構は、陥し穴２基、土坑４基、柱穴状小土坑３個である。調査区が狭いため、遺構の一部しか確認できなかったものがほとんどである。

ＳＫ01土坑（第８・11図、写真図版５・12）

20ｃグリッド付近に位置する。Ⅳｃ層上面で検出した。遺構の北端と、南端とも調査区外にあり不明であるが、平面形は楕円形に近いと推定される。調査区内で確認できた東西の幅は、開口部2.20ｍ、底部0.96ｍである。確認面から底面までの深さは1.10ｍで、Ⅶ層まで掘りこまれる。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は黒色土主体である。遺物は、縄文土器片５点（63ｇ）が出土し、このうち１点（１）を掲載した。１は、壺の肩部で、地文のみである。縄文時代の遺構と考えられるが、時期の詳細や性格は不明である。

ＳＫ02土坑（第８・11図、写真図版５・12）

77ｂグリッド付近に位置する。Ⅳｃ層上面で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はＮ－30°－Ｅである。規模は、開口部径1.70×1.50ｍ、底部径1.40×1.25ｍ、確認面から底面までの深さは0.60ｍである。底面は概ね平坦で、壁はやや外傾する。埋土は黒褐色土主体で、南部浮石を含む。底面はⅦ層まで掘りこまれる。遺物は、縄文土器109点（1,674ｇ）が出土し、このうち８点（４～11）を掲載した。４は粗製深鉢の口縁部で、地文のみ施される。５～７は鉢の口縁部である。５は口縁部が内側へ屈曲する。２条の細い沈線が巡り、その間に刺突が施される。６は頸部にくびれを持つ器形で、体部には磨消縄文が施される。７は口縁部付近まで磨消縄文が施される。８は浅鉢の口縁部で、沈線で曲線的に文様が描かれる。９～11は台付鉢である。９は頸部付近に大突起を持ち、体部上半と台部に「Ｃ」字の文様が描かれる。10は台部のみである。11は小形で、全体に地文が施される。出土遺物から、縄文時代晩期中葉頃の遺構と推定される。

ＳＫ03陥し穴（第８図、写真図版５）

48ｉグリッド付近に位置する。Ⅳｃ層上面で確認した。遺構の北端、南端ともに調査区外にあり全容は不明であるが、平面形は溝状で、長軸方向は調査区とほぼ垂直方向のＮ－18°－Ｅ付近と推定される。長軸方向は、確認できた範囲で全長1.00ｍである。短軸方向は、開口部幅1.20ｍ、底部幅0.20ｍで、開口部から底部にかけて窄まる形状である。確認面から底面までの深さは1.10ｍである。底面はⅦ層まで掘りこまれる。出土遺物がなく時期の詳細は不明であるが、形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

ＳＫ04土坑（第９図、写真図版５）

74ｃグリッド付近に位置する。Ⅳｃ層上面で確認した。遺構の南東側は調査区外にあり不明であるが、平面形は楕円形と推定される。ＳＫ06陥し穴と重複し、これを切る。調査区内で確認できた部分は、開口部径2.10ｍ、底部径1.50ｍで、確認面から底面までの深さは0.60ｍである。底面は平坦で、

壁はやや外傾する。底面はⅦ層まで掘りこまれる。遺物は、縄文土器６点（43ｇ）が出土したが、体部の小破片であるため掲載しなかった。縄文時代の遺構と考えられるが、時期の詳細や遺構の性格は不明である。

ＳＫ05土坑（第９図、写真図版５）

64ｄグリッド付近に位置する。Ⅳｃ層上面で検出した。遺構の南側は調査区外にあり不明である。埋土は黒褐色土主体であるが、壁をなすⅣｂ層との識別が難しく、西側は掘り過ぎてしまった。底面は平坦で、壁はやや外傾する。底面に径0.15m程度の副穴１個を伴う。遺物は、縄文土器４点（49ｇ）が出土したが、地文のみの体部小破片であり掲載しなかった。縄文時代の遺構と考えられるが、時期の詳細や遺構の性格は不明である。

ＳＫ06陥し穴（第９・11図、写真図版５・12）

74ｃグリッド付近に位置する。Ⅵｃ層上面で検出した。遺構の東端、西端は調査区外にあり不明であるが、平面形は溝状で、長軸方向はＮ－75°－Ｅである。確認できた範囲では、長軸方向の全長が1.30mで、開口部幅0.80m、底部幅0.16m、深さ0.80m。である。ＳＫ04土坑に切られる。検出時プランは明瞭ではなく、ＳＫ04土坑の精査中にようやく確認できた。遺物は、縄文土器４点（24ｇ）が出土し、このうち２点（２・３）を掲載した。いずれも鉢の口縁部である。２は口縁部付近に平行沈線３条が施され、その下位は地文である。３は頸部にくびれを持つ器形で、頸部は無文、頸部の付け根に刺突列、体部下位に磨消縄文が施される。出土遺物から、縄文時代晩期中葉の遺構と考えられる。

柱穴状土坑（第10図）

調査区東側の65～67グリッド付近で３個（Ｐ１～３）確認している。いずれも、Ⅴ層上面で検出したが、掘りこみ面はこれより上層であった可能性もある。３基の配列は直線的ではなく、Ｐ１・Ｐ２間が約３ｍ、Ｐ２・Ｐ３間が約２ｍと、間隔も異なる。建物を構成する柱穴であったと断定する根拠はない。埋土は黒褐色土が主体である。ピットの各規模は表の通りである。出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

遺構名	グリッド	検出面	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）
P1	67c	Ⅴ層上面	0.28	0.24	0.44
P2	66c	Ⅴ層上面	0.28	0.28	0.22
P3	65d	Ⅴ層上面	0.34	0.32	0.18

柱穴状土坑一覧表

2　包含層出土遺物

遺物包含層（写真図版６～９）

出土した土器の総重量は61,099ｇである（調査区外で表採した4,833ｇを含む）。遺構内の出土重量は1,853ｇで、遺構外の出土重量は54,413ｇである（出土地点不明のものが3,529ｇあり、出土地点の分かるものは50,884ｇである）。各グリッドの遺物出土重量・点数は第３表に示した。調査区西端の１～15グリッドでは遺物は全く出土していない。16～60グリッドでは散発的に出土するものの、量は僅かである。61グリッドより東側では遺物が多く出土している。１グリッドあたりの出土重量は、61

～66グリッドで100～600ｇ程度、67～75グリッドでは1,000ｇ以上で、最大で8,994ｇが出土した。76・77グリッドでは800ｇ前後である。78～83グリッドでは全く出土していない。67～77グリッドは、調査区内での面積比が約13％であるのに対し、土器出土重量は、全体の約80％を占める。出土層位はⅣａ・Ⅳｂ層にかけての層厚20～30cmの範囲である。Ⅳａ層は十和田ｂ火山灰を含む黒褐色土層である。遺物の概略は以下に述べる。

（１）縄文土器・土製品（第11～20図、写真図版12～21）

12～129は遺構外、主に包含層出土の縄文土器である。主に器種を基準として分けて掲載したが、区分は厳密なものではなく、器高が口径より大きいものを深鉢、器高と口径がほぼ同じのものを鉢、器高が口径より小さいものを浅鉢としている。計測できない破片については推定により分けている。鉢には台付のものがある。器種はこの他に壺、ミニチュア土器がある。文様の特徴から大半が晩期中葉の大洞Ｃ２式に比定されると考えられる。

12～29は粗製の深鉢である。12～14は内湾する器形で、13は口唇部に突起を持つ。15はやや外反する器形で、口唇部に押圧が施され、外面から内面へ穿孔されている。16～18は口唇部に刻みがあり、頸部には複数の沈線が平行に巡る。16・18は口唇部にＢ突起を持つ。19～22は口唇部に押圧が施され、頸部には多数の沈線が巡る。23～28も口唇部に押圧が施され、23・24の頸部は２条の沈線の間が無文となり、25～28の頸部は無文である。29は波状の口縁部で、頸部に沈線と無文帯を持つ。

30～56は鉢である。頸部と体部の境界で屈曲する器形で、口縁部は直立または内傾する。口縁部は波状のものと、平縁に細かい刻みが施されるものがあり、体部は無文である。30～37は頸部に沈線が巡り、35～37は沈線の間に連続刺突列がある。38～41は沈線が縦に連結し工字文となる。42・43は頸部と体部の境界に隆帯をもつ。45～53は、頸部が無文である。このうち50～53は頸部と体部の境界に突起がある。50～53は他の鉢に比べ小型である。50は底部付近が失われているが、台部が存在した可能性がある。53は体部が丸みを帯びた器形である。54～56は頸部がくびれ、曲線的に外湾する。口唇部に深い刻みが施され、頸部と体部の境界に刺突列が巡る。56は体部にも沈線が施される。

57～66も鉢であるが、頸部で屈曲せず、底部から口縁部まで緩やかに立ち上がる器形である。57・58は波状の口縁で、体部下半の地文の上を沈線による曲線で区画し、一部を磨り消している。59・60は口縁部から体部下半まで地文のみであり、59は口縁部に突起を持つ。61～65は口縁部付近に２～３条の沈線が横位に巡る。63は器壁が薄い。64・65は沈線の間にも地文が施される。66は口唇部が内側へ折れ、その上面に沈線が施される。一部が山形の突起状となっている。

67～75は台付鉢である。67・68は頸部に沈線が巡り、体部は地文のみである。67・68とも口唇部に突起を持つが、67は突起の間に刻み、68は地文が施される。69は頸部と体部の間に隆帯を持ち、体部には地文の上に沈線により曲線が描かれる。70～74は台部のみである。70・73・74の台部は無文、71は地文のみ、72は４条の沈線が横位に巡り、縦方向の短い沈線がある。75は小形の台付鉢で、無文である。

76～95は浅鉢である。76～82は、頸部と体部の境界で屈曲し、隆帯が巡る。体部は、76～78が地文のみで、79～82は磨消縄文が施文される。口唇部には刻みがある。83・84は体部に工字文が施される。85～88も頸部で屈曲するが、隆帯は持たず、頸部が無文である。89～92は口縁部まで緩やかに立ち上がる器形で、地文は施されない。89・90は内外面とも磨きが施され、口縁部に２条の沈線が巡る。93～95は小形の浅鉢である。93は、85をそのまま縮小したような器形・文様である。94は

丸底で、口縁部まで緩やかに立ち上がり、地文のみが施される。

96 ～ 109は、底部のみの破片で、ある。96 ～ 103は鉢または浅鉢、104 ～ 109は粗製の深鉢とみられる。102・103以外は地文が施される。

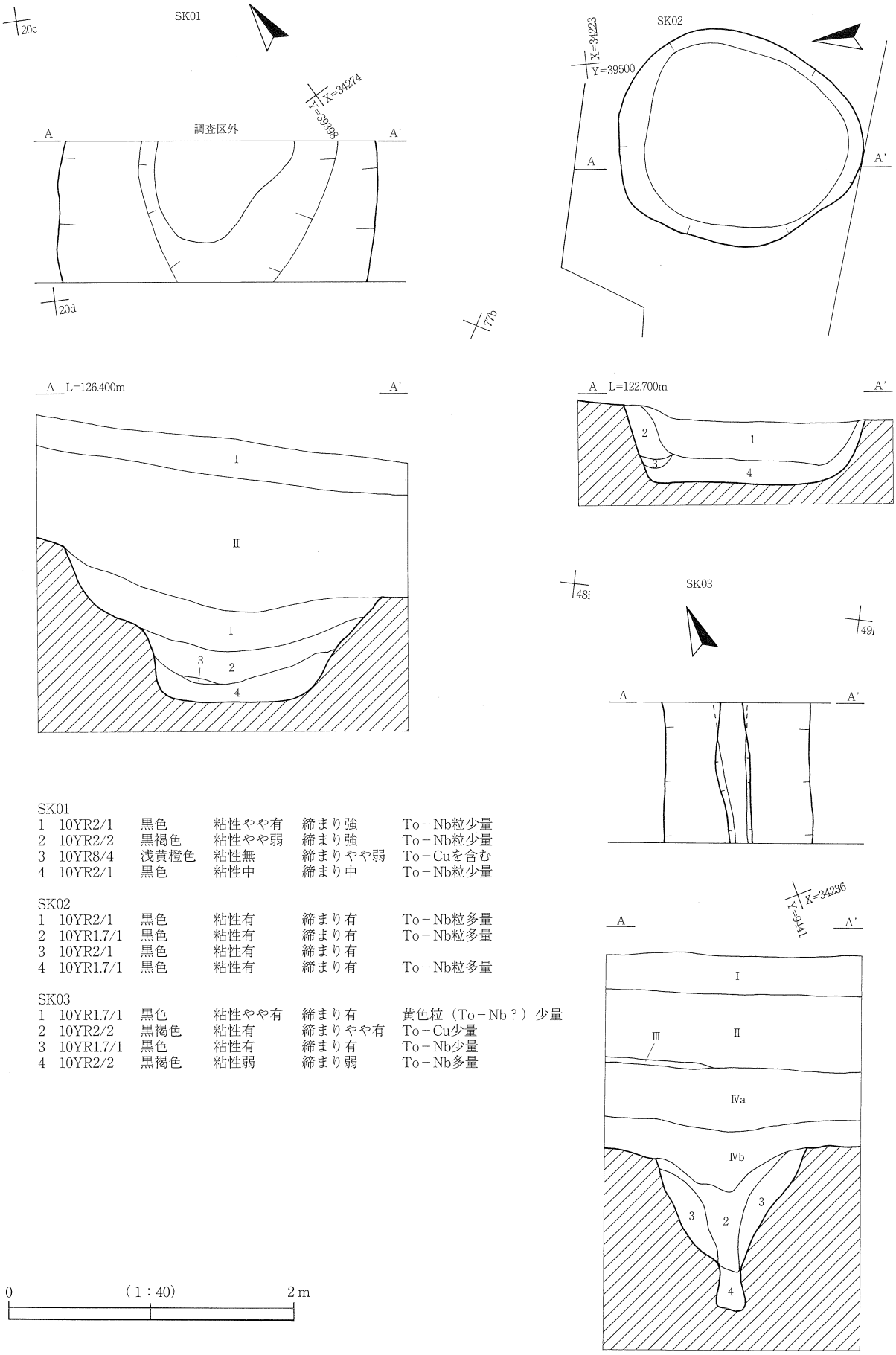
111 ～ 126は壺である。110 ～ 112は同一個体の可能性がある。頸部は無文で、体部上半は横位に数段の沈線が巡り、その間に磨消縄文が施される。体部下半は地文のみである。無文部分は丁寧に磨きが施され光沢がある。113は粗製の壺で、体部上半に最大径を持つ。頸部はやや内傾し、無文である。114 ～ 116は小形の壺である。114は頸部のみ無文である。115は体部上半に数段の平行沈線があり、その間がクランク状の沈線で区切られ、体部下半は地文のみである。頸部は無文で丁寧に磨かれ、上位に２条の沈線が巡る。116は口縁部に１条の沈線が横位に巡る他は、口唇部を含め全体に地文が施される。頸部はやや外傾する。117 ～ 120は壺の口縁部で、口唇部付近に沈線や突起などがみられる。119は朱塗りである。121は体部上半の無文部分に縦横の沈線がある。122・123は底部付近で、122は無文、123は地文のみである。124 ～ 126はミニチュアの壺で、126は台が付く。

127は中空の筒状で、注口土器の注口部と思われる。128は、一見浅鉢のようであるが、体部の曲がり具合などから舟形のような器形が想定できるため、そのように図化した。129は土偶の一部と推定されるが、部位は不明である。地文部と無文部が沈線で区切られる。

（２）石器・石製品（第21 ～ 24図、写真図版22 ～ 24）

201 ～ 204は石鏃で、201のみ無茎、202 ～ 204は有茎である。201はチャート、202 ～ 204は頁岩製である。205・206は頁岩製の石匙で、いずれも横長である。207 ～ 209は石錐である。207はメノウ、208・209は頁岩製である。210は楔形石器で、頁岩製である。211 ～ 217は２次加工ある剥片である。212は破断しており、石匙やスクレイパーの一部であった可能性がある。213は凝灰岩、211・212・214 ～ 217は頁岩製である。219 ～ 221は石核で、いずれも頁岩製である。上記のほか、剥片が調査区全体で722.5ｇ出土している。石材はすべて頁岩である。出土が多かったのは主に67グリッド以東の包含層である。グリッド毎の剥片出土重量・点数は第２表に示した。

222は凝灰岩製の岩板である。破損しているが、円盤状の石材の表裏と側縁に、数条の細い沈線が刻まれる。223は磨製石斧の基部で、頁岩製である。224 ～ 229は石棒で、224は棒状、225 ～ 229は偏平である。いずれも破損している。224は砂岩、228はホルンフェルス、225 ～ 227、229は粘板岩製である。230はデイサイト製の石製円盤である。231・232は安山岩製の磨石である。231は片面、232は両面に磨り痕跡が確認できる。233・234は安山岩製の凹石である。233は両面、234は片面に凹みが確認できる。235は閃緑岩製の礫器で、側縁に両面からの調整が施される。236 ～ 239は石皿である。236・239はデイサイト、237・238は安山岩製である。236は表面に擦痕がみられる。237・238・239は縁辺が高く、中央が窪むように加工されている。



SK01

1	10YR2/1	黒色	粘性やや有	締まり強	To－Nb粒少量
2	10YR2/2	黒褐色	粘性やや弱	締まり強	To－Nb粒少量
3	10YR8/4	浅黄橙色	粘性無	締まりやや弱	To－Cuを含む
4	10YR2/1	黒色	粘性中	締まり中	To－Nb粒少量

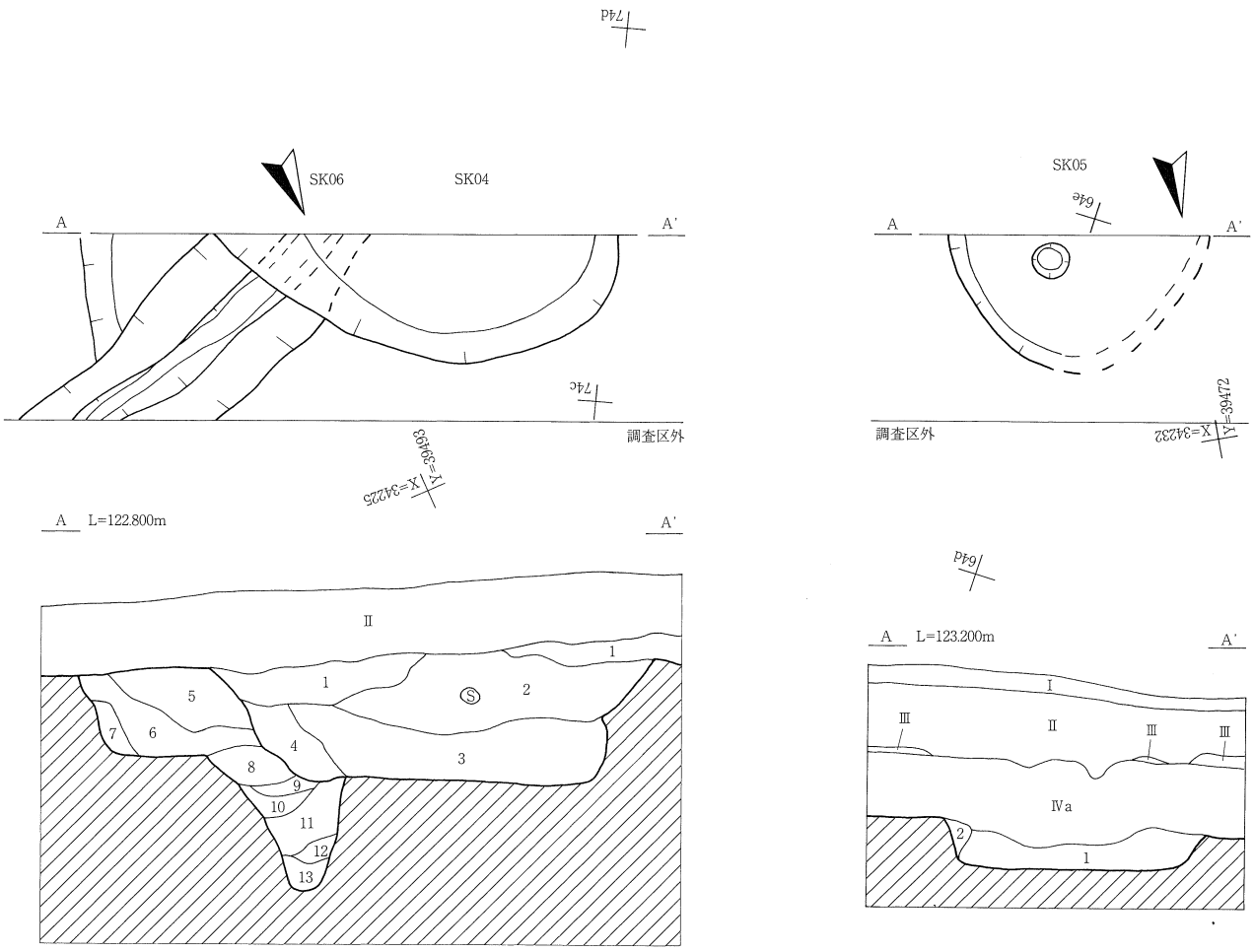
SK02

1	10YR2/1	黒色	粘性有	締まり有	To－Nb粒多量
2	10YR1.7/1	黒色	粘性有	締まり有	To－Nb粒多量
3	10YR2/1	黒色	粘性有	締まり有	
4	10YR1.7/1	黒色	粘性有	締まり有	To－Nb粒多量

SK03

1	10YR1.7/1	黒色	粘性やや有	締まり有	黄色粒（To－Nb？）少量
2	10YR2/2	黒褐色	粘性有	締まりやや有	To－Cu少量
3	10YR1.7/1	黒色	粘性有	締まり有	To－Nb少量
4	10YR2/2	黒褐色	粘性弱	締まり弱	To－Nb多量

第８図　遺構（１）



SK04・06

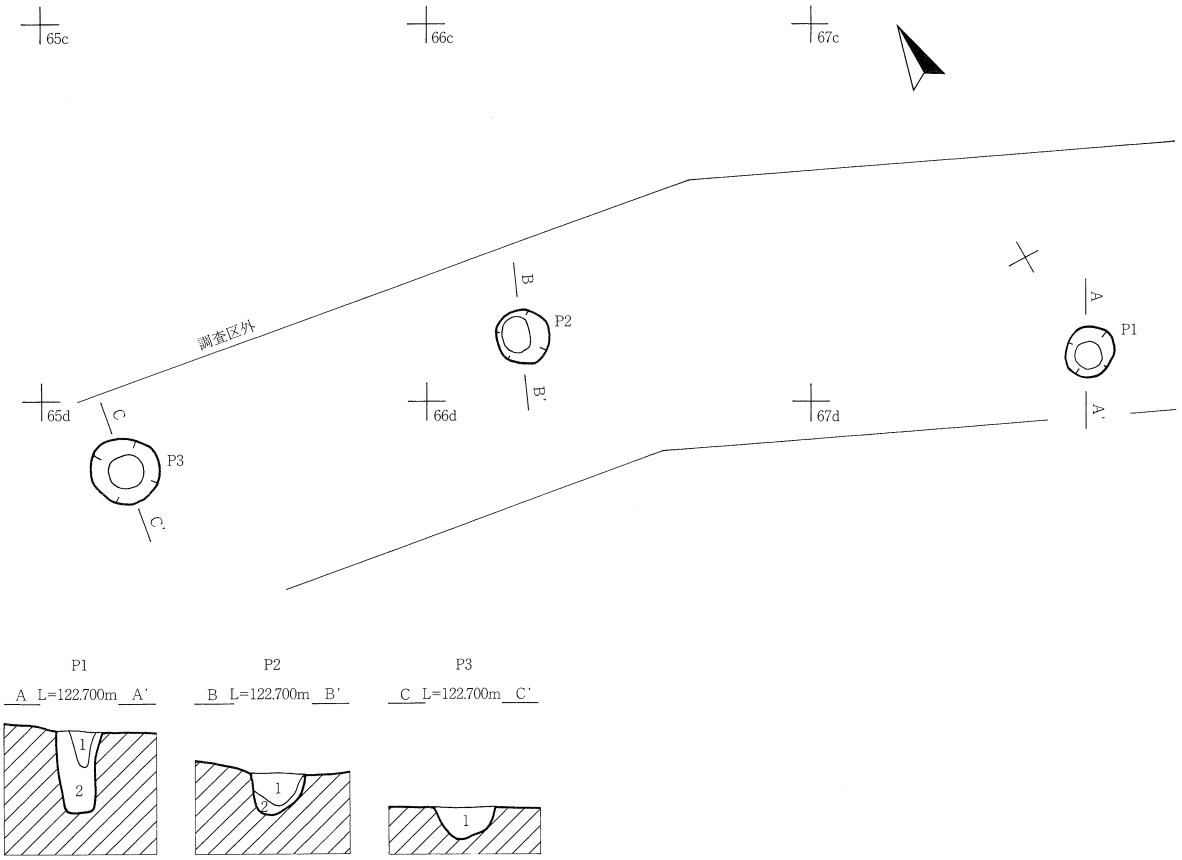
1	10YR1.7/1	黒色	粘性やや有	締まり有	To－b少量
2	10YR2/2	黒褐色	粘性やや有	締まり有	白色粒子少量
3	10YR2/1	黒色	粘性やや有	締まり有	白色粒子少量
4	10YR2/2	黒褐色	粘性やや有	締まり有	
5	10YR2/2	黒褐色	粘性やや有	締まり有	
6	10YR1.7/1	黒色	粘性有	締まりやや弱	
7	10YR3/3	暗褐色	粘性弱	締まりやや弱	To－Cu多量
8	10YR2/1	黒色	粘性有	締まり有	To－Nb多量
9	10YR2/3	黒褐色	粘性弱	締まりやや弱	To－Cu多量
10	10YR2/1	黒色	粘性有	締まり有	
11	10YR2/3	黒褐色	粘性弱	締まりやや弱	
12	10YR2/3	黒褐色	粘性やや弱	締まりやや弱	To－Cu・To－Nb少量
13	10YR3/2	黒褐色	粘性やや弱	締まり弱	To－Nb多量

SK05

1	10YR2/2	黒褐色	粘性有	締まりやや弱	黄色粒（To－Nb ？）多量
2	10YR2/3	黒褐色	粘性やや弱	締まり有	To－Cu少量

0　（1：40）　2m

第9図　遺構（2）



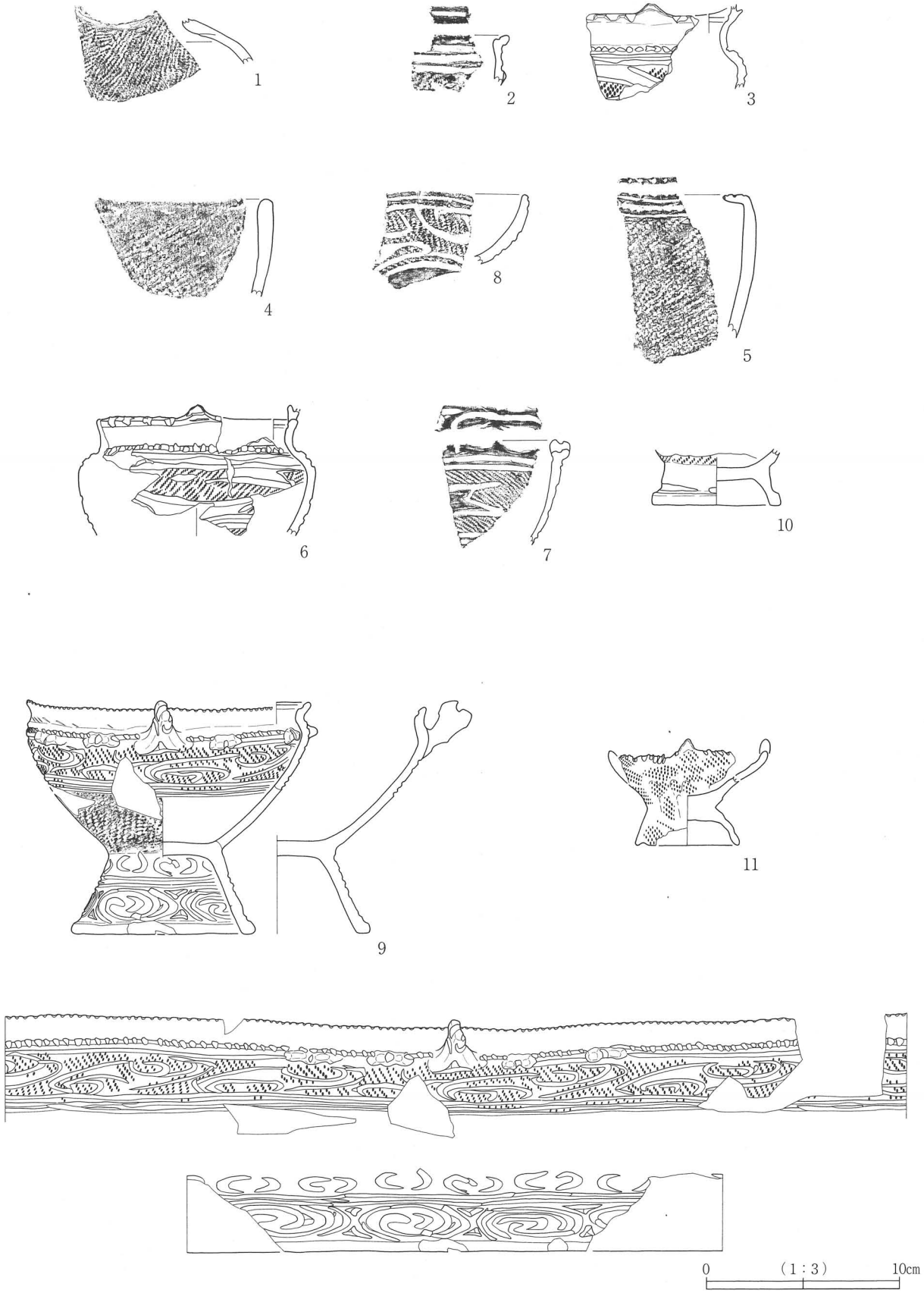
P1
1　10YR2/1　黒色　粘性有　締まりやや弱
2　10YR2/1　黒色　粘性有　締まり弱　To－a少量

P2
1　10YR2/1　黒色　粘性有　締まり有
2　10YR2/1　黒色　粘性有　締まり有　To－Cu少量

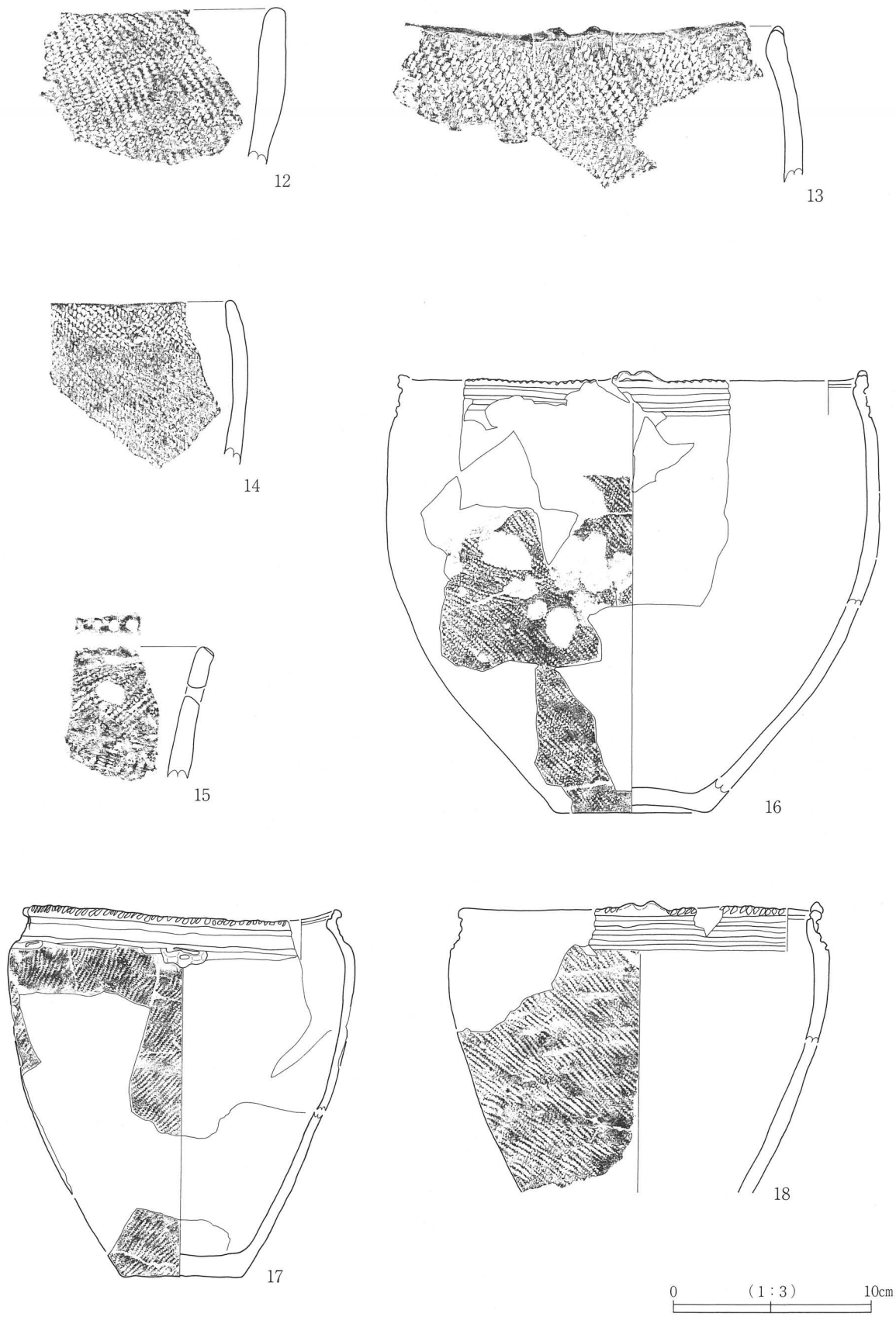
P3
1　10YR2/2　黒褐色　粘性やや有　締まりやや弱

0　(1：40)　2m

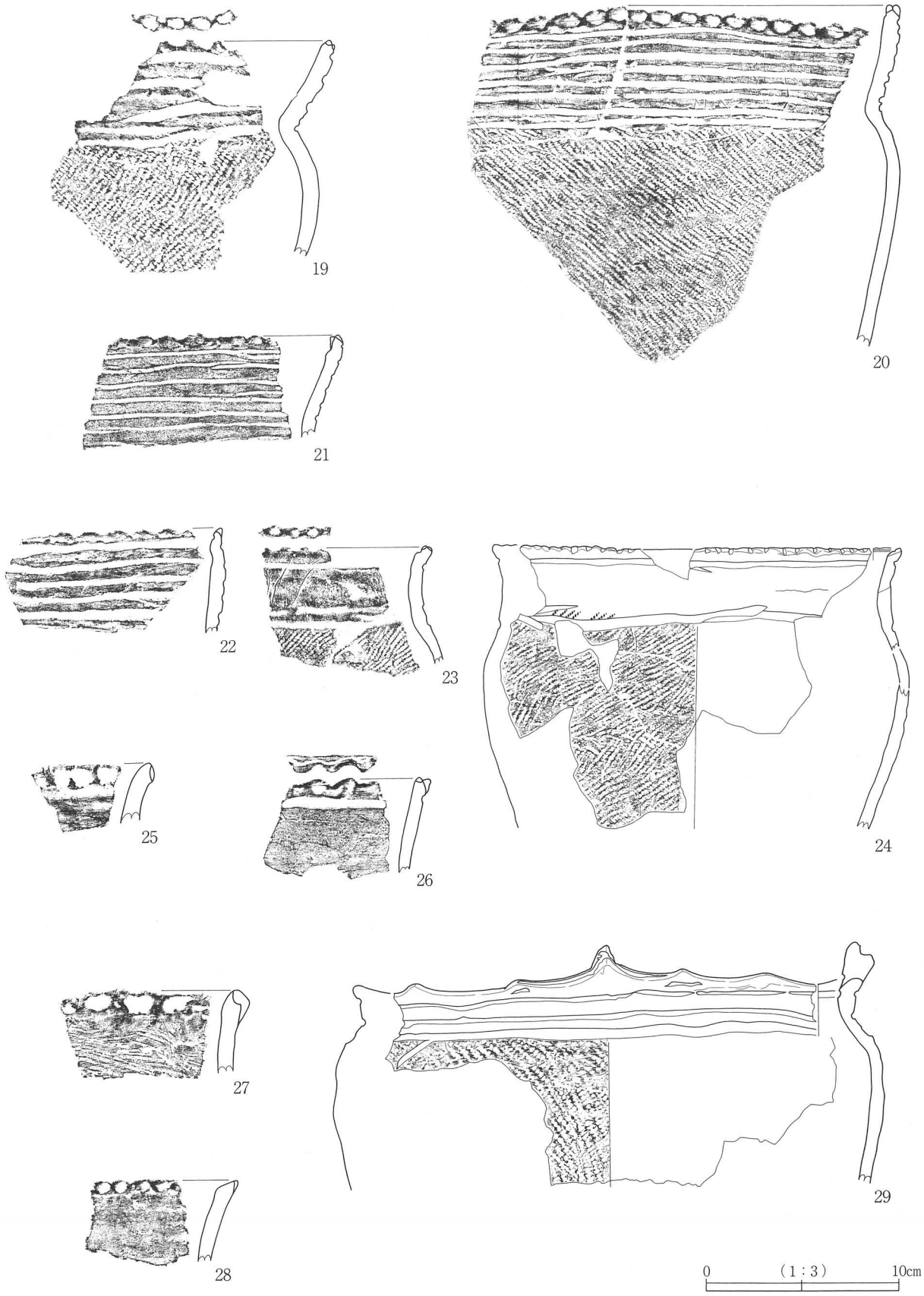
第10図　遺構（3）



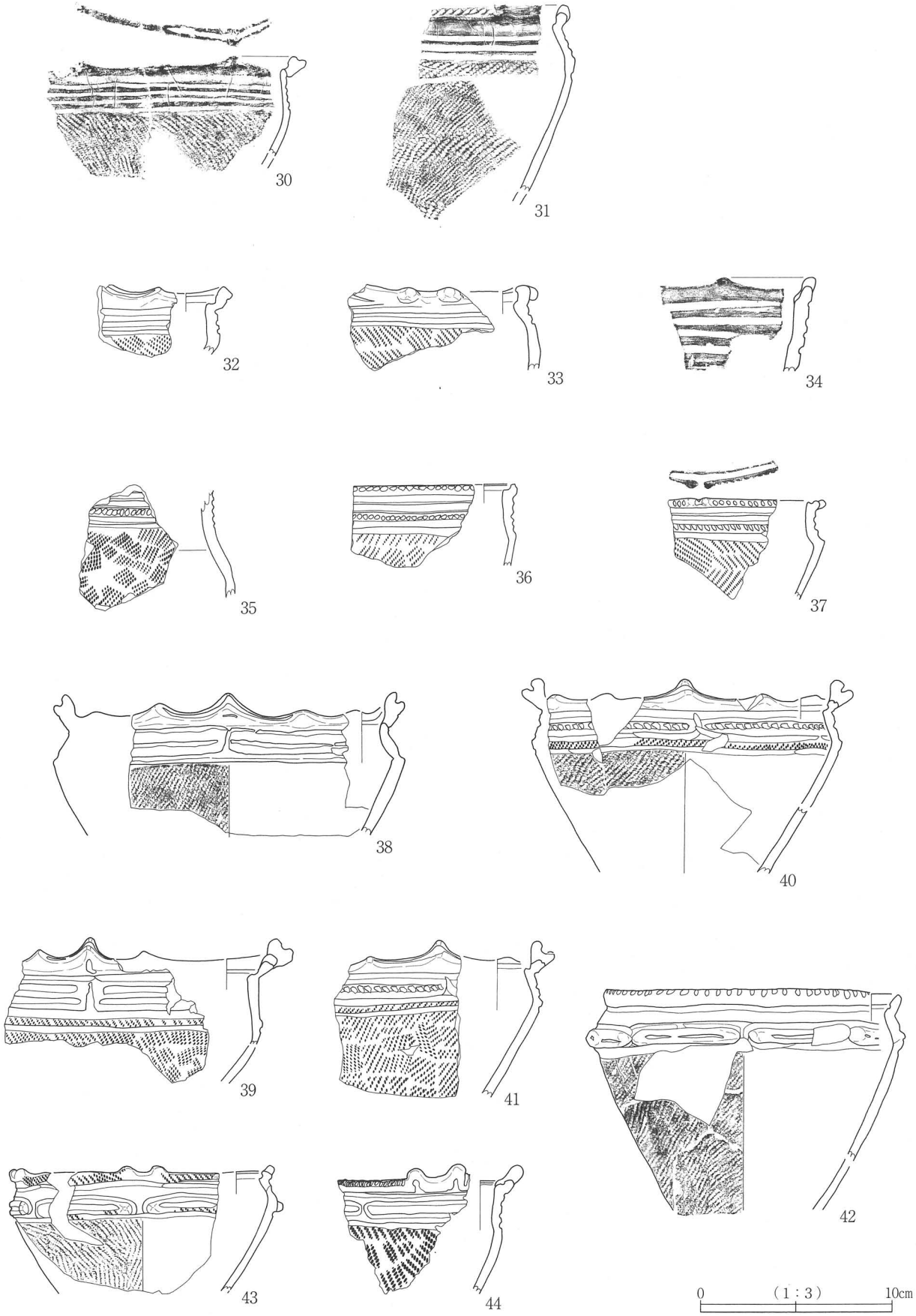
第11図　土器（1）



第12図　土器（2）

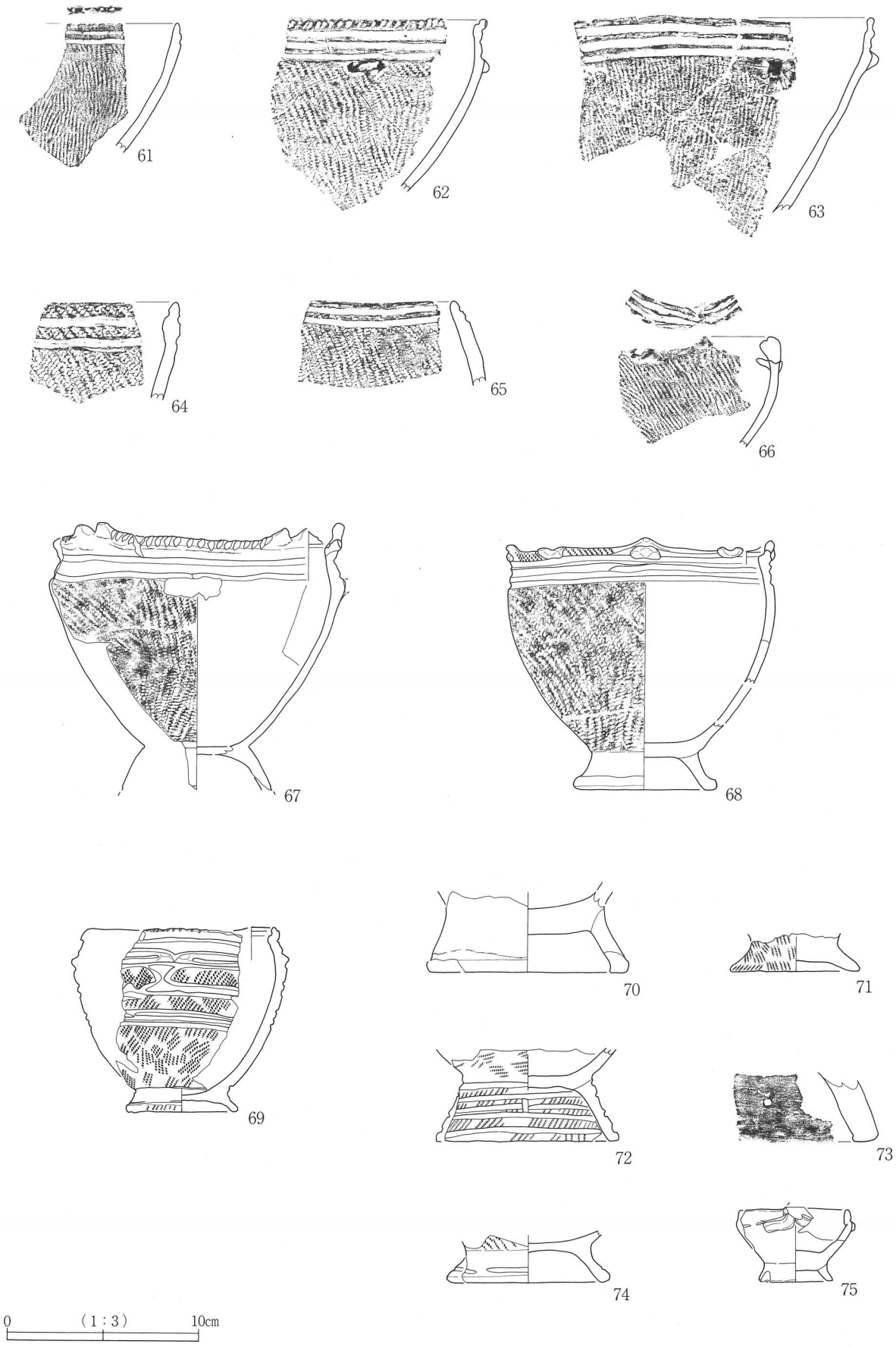


第13図　土器（3）



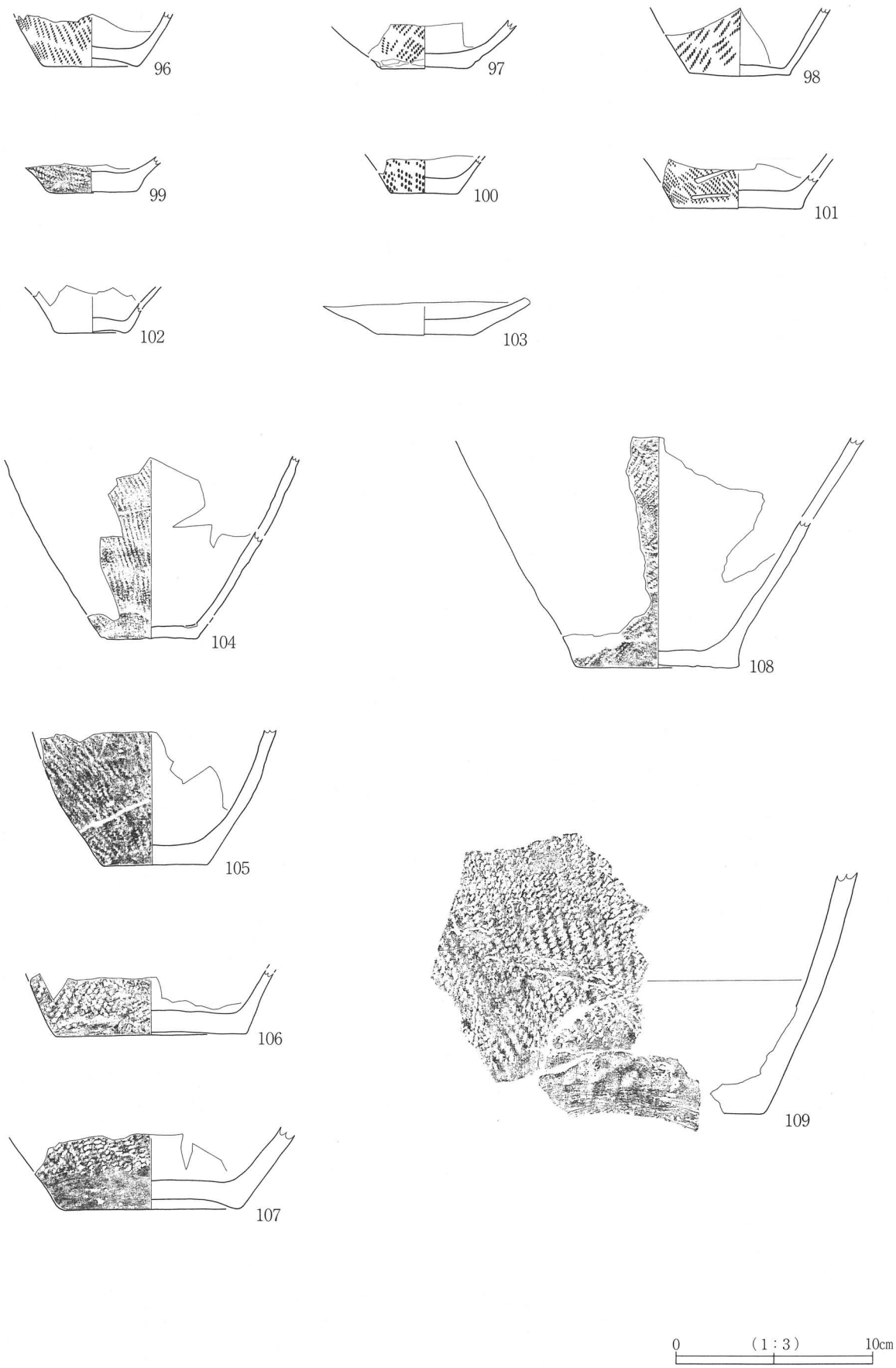
第14図　土器（4）

第15図　土器（5）

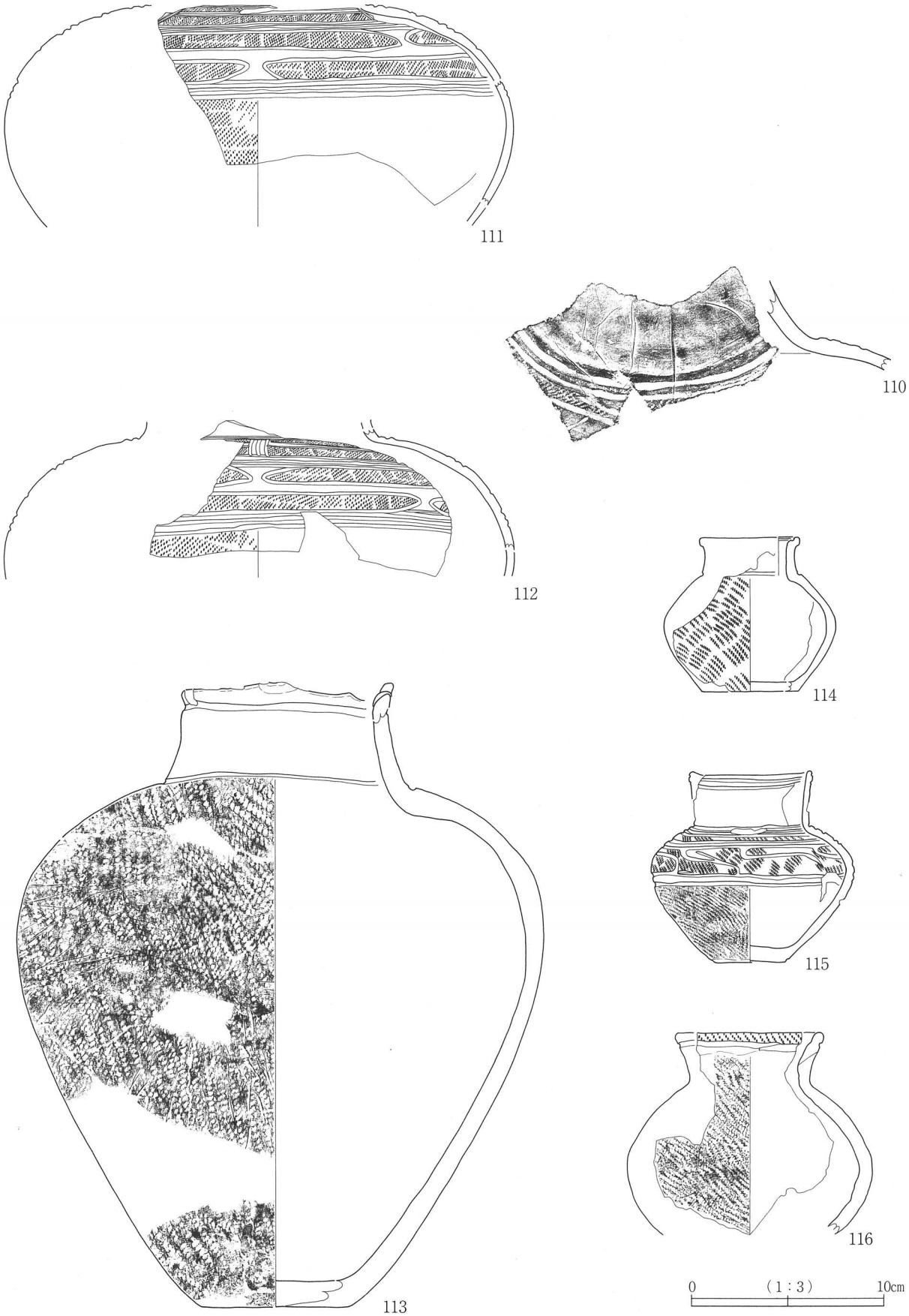


第16図　土器（6）

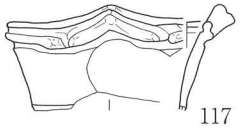
第17図　土器（7）

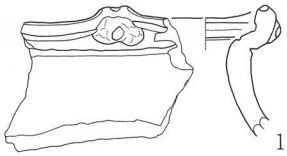


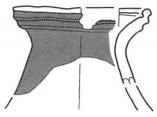
第18図　土器（8）

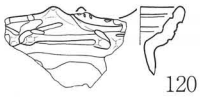


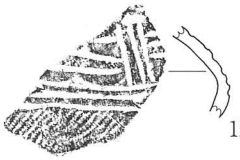
第19図　土器（9）

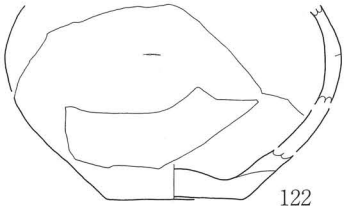

117

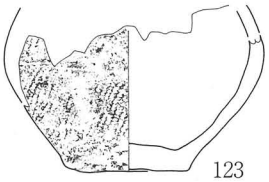

118


119


120


121


122

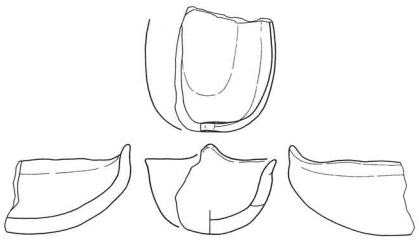

123

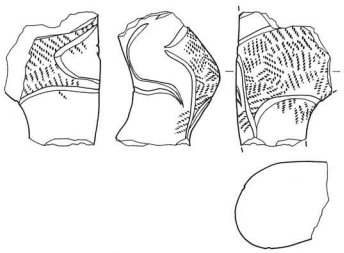
124

125

126

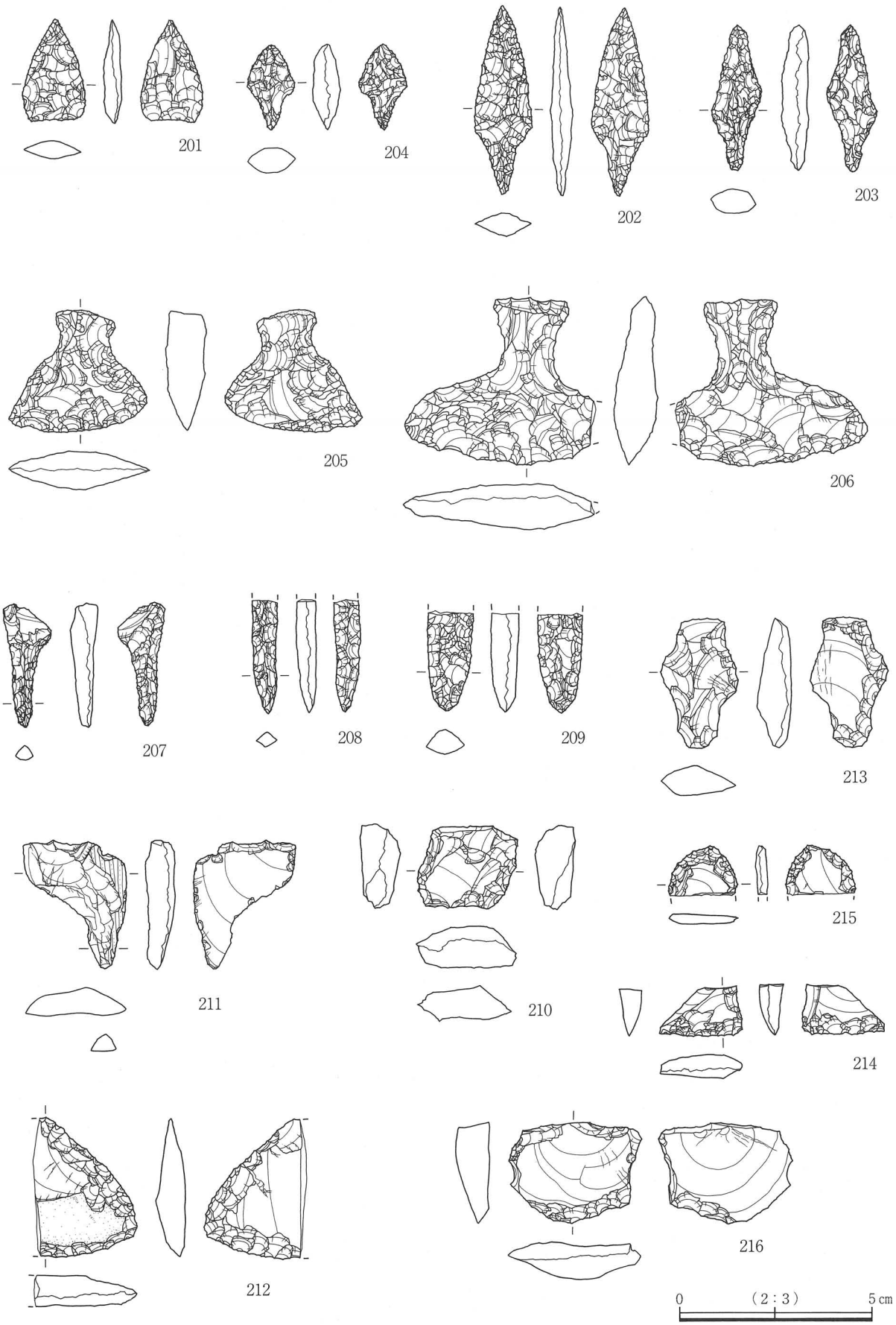
127


128

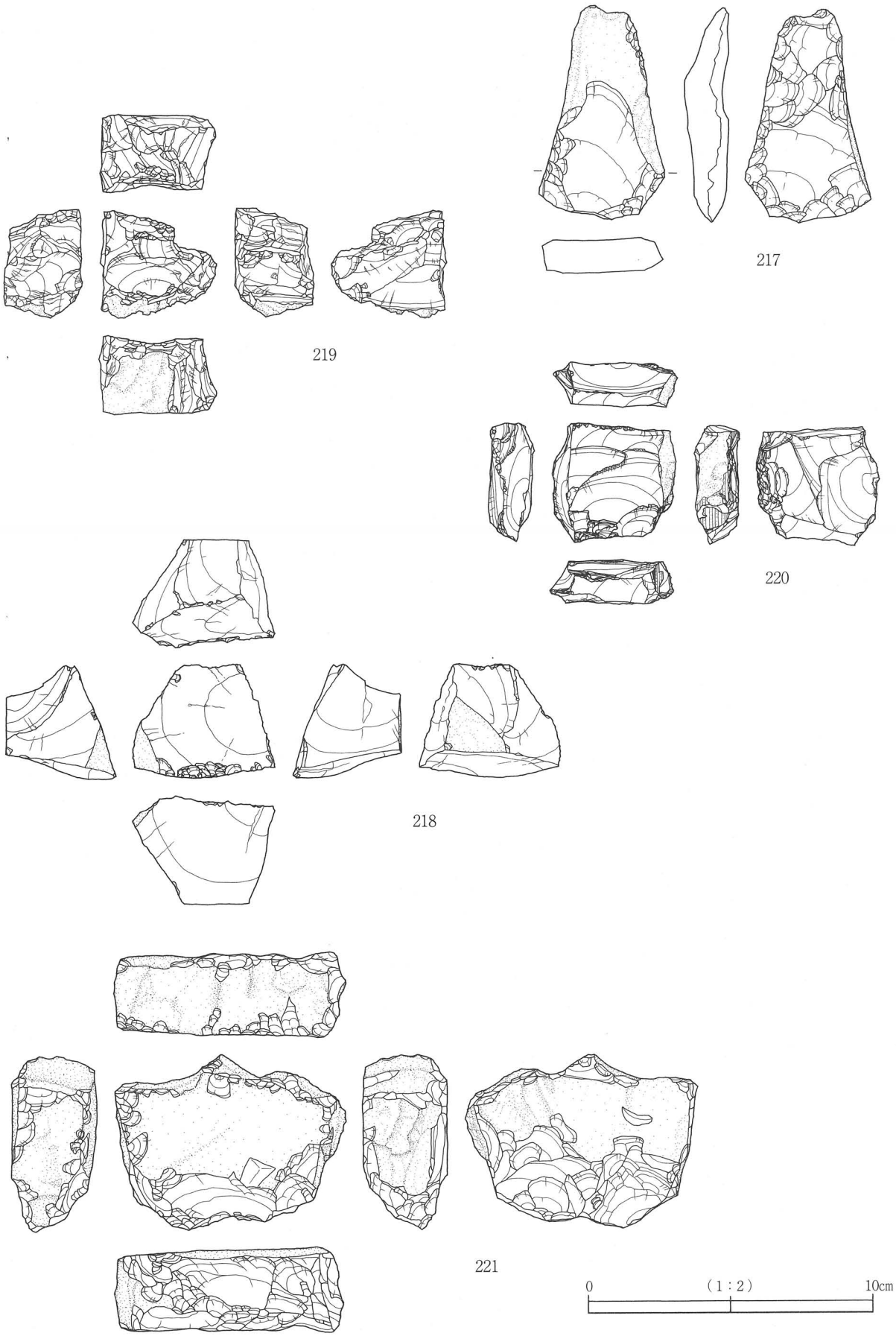

129

0　（1：3）　10cm

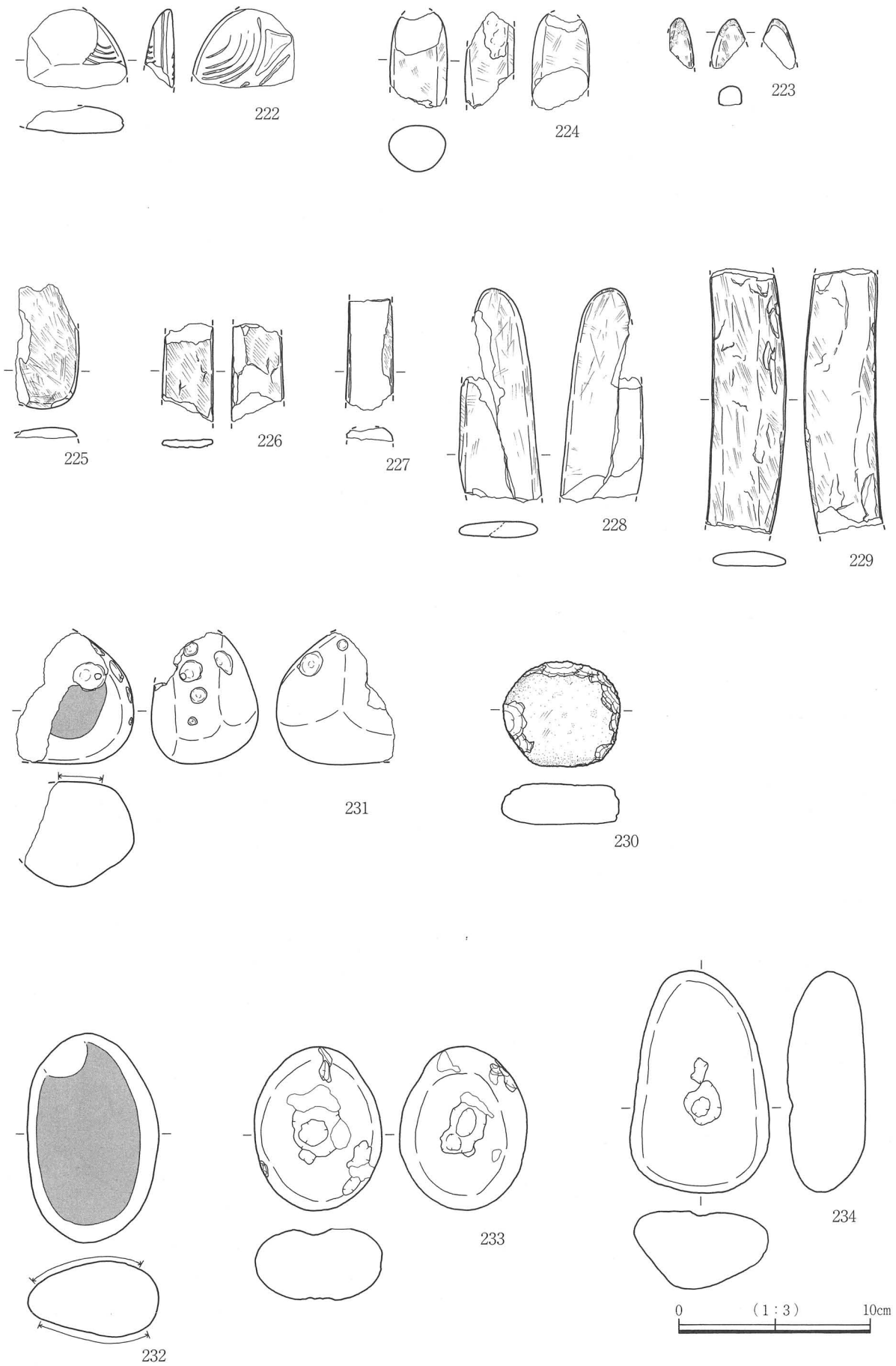
第20図　土器（10）


201
204
202
203
205
206
207
208
209
213
211
210
215
214
212
216
0
(2：3)
5cm

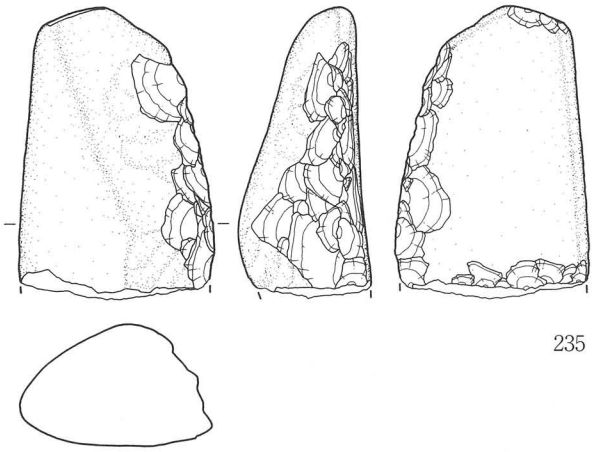
第21図　石器（1）



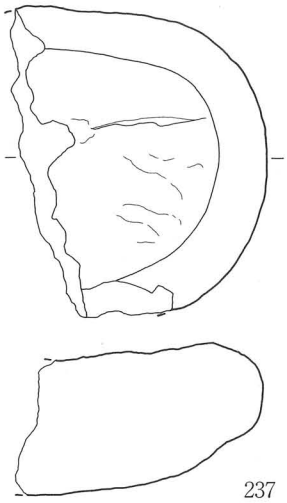
第22図　石器（2）



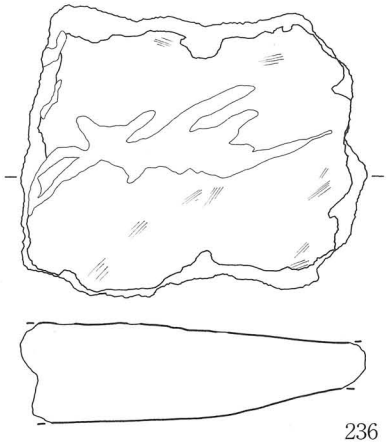
第23図　石器（3）



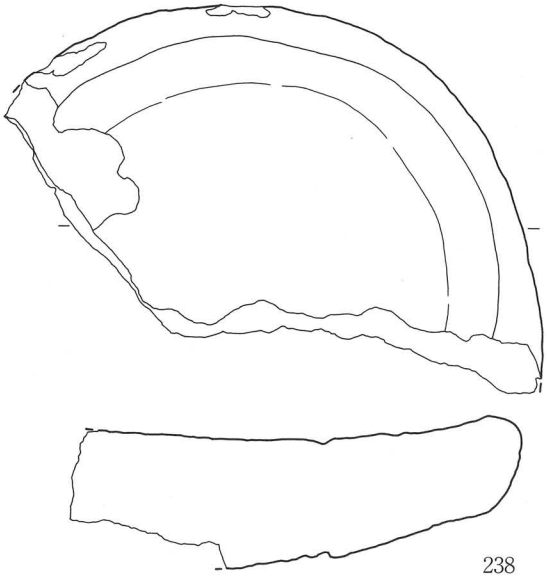
235



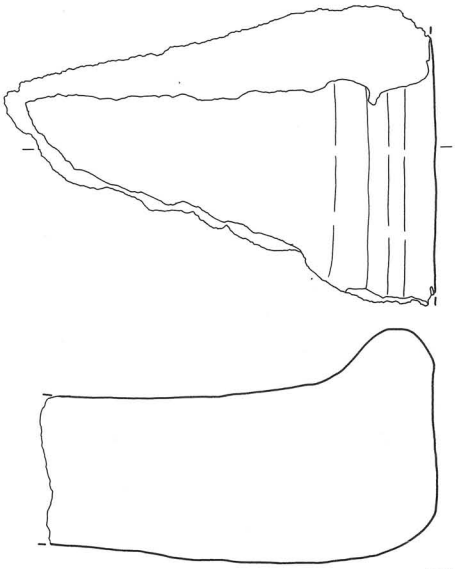
237



236



238



239

0　（1：3）　10cm

第24図　石器（4）

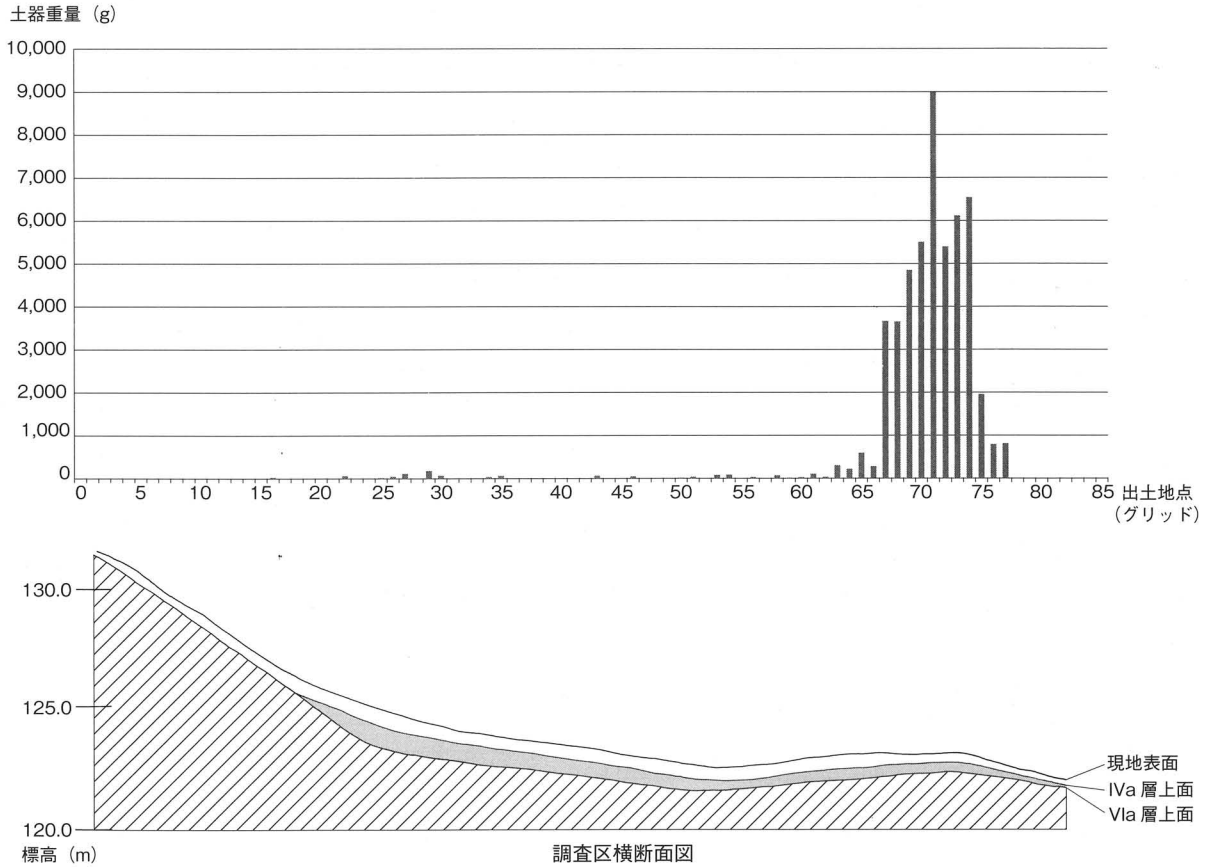
Ⅳ まとめ

今回の調査では、遺跡の北側を東西に横断する180㎡の範囲を調査した。遺跡内には十和田ａ・十和田ｂ・十和田中掫・南部テフラなどが良好に堆積する。遺構は陥し穴２基、土坑４基、柱穴状土坑３個を検出した。陥し穴・土坑は縄文時代の遺構とみられる。遺構の大半は調査区東側に多く分布する。陥し穴の存在から、縄文時代には狩猟場として利用されたと考えられる。その他の土坑の性格は不明である。住居跡の検出はなかった。

調査区東側の平坦部では縄文時代晩期の遺物包含層を確認した。遺物を包含する層は十和田ｂテフラを含む。遺構の一部はこの遺物包含層の下位で検出している。

包含層から出土した土器深鉢・鉢・浅鉢・台付鉢・壺・ミニチュア土器・土偶などである。土器は縄文時代晩期中葉の大洞Ｃ２式に属すると考えられ、他の時期の混入は殆どない。石器は、石鏃・石匙・石錐・スクレイパー・石核・剥片・磨製石斧・石棒・岩版・磨石・凹石・石皿が出土した。

限定された範囲の調査であり、遺構・遺物は遺跡のごく一部を垣間見たに過ぎない。調査区に隣接する畑地では多くの縄文土器が表採されており、調査区外にも良好な資料が豊富に埋蔵されていることを予感させる。今後、隣接部分を調査する機会があり、遺跡の性格が明らかになっていくことを期待したい。



第25図　グリッド別土器出土重量

出土地点	土器重量（g）	土器点数（点）	重量比（%）	剥片数（点）	剥片重量（g）
グリッド16	27	2	0.05%	0	0
グリッド17	0	0	0.00%	0	0
グリッド18	0	0	0.00%	0	0
グリッド19	0	0	0.00%	0	0
グリッド20	0	0	0.00%	0	0
グリッド21	0	0	0.00%	0	0
グリッド22	65	8	0.13%	0	0
グリッド23	0	0	0.00%	0	0
グリッド24	0	0	0.00%	0	0
グリッド25	20	3	0.04%	0	0
グリッド26	47	4	0.09%	0	0
グリッド27	115	11	0.23%	0	0
グリッド28	0	0	0.00%	0	0
グリッド29	182	7	0.36%	0	0
グリッド30	68	2	0.13%	0	0
グリッド31	0	0	0.00%	0	0
グリッド32	0	0	0.00%	0	0
グリッド33	0	0	0.00%	0	0
グリッド34	34	1	0.07%	0	0
グリッド35	63	8	0.12%	0	0
グリッド36	0	0	0.00%	0	0
グリッド37	0	0	0.00%	0	0
グリッド38	0	0	0.00%	0	0
グリッド39	0	0	0.00%	0	0
グリッド40	0	0	0.00%	0	0
グリッド41	0	0	0.00%	0	0
グリッド42	0	0	0.00%	0	0
グリッド43	64	4	0.13%	0	0
グリッド44	0	0	0.00%	0	0
グリッド45	0	0	0.00%	0	0
グリッド46	46	1	0.09%	0	0
グリッド47	0	0	0.00%	0	0
グリッド48	0	0	0.00%	0	0
グリッド49	0	0	0.00%	0	0
グリッド50	16	1	0.03%	0	0
グリッド51	38	6	0.07%	0	0
グリッド52	0	0	0.00%	0	0
グリッド53	79	5	0.16%	0	0
グリッド54	84	7	0.17%	0	0
グリッド55	2	1	0.00%	0	0
グリッド56	31	4	0.06%	0	0
グリッド57	0	0	0.00%	0	0
グリッド58	68	2	0.13%	0	0
グリッド59	14	1	0.03%	0	0
グリッド60	25	3	0.05%	0	0
グリッド61	106	4	0.21%	0	0
グリッド62	35	3	0.07%	0	0
グリッド63	303	27	0.60%	0	0
グリッド64	219	22	0.43%	0	0
グリッド65	593	27	1.16%	0	0
グリッド66	278	26	0.55%	0	0
グリッド67	3,663	178	7.20%	1	3.9
グリッド68	3,647	318	7.17%	1	5.2
グリッド69	4,847	443	9.53%	5	22.3
グリッド70	5,505	479	10.82%	1	2.6
グリッド71	8,994	805	17.67%	11	81
グリッド72	5,393	484	10.60%	2	8.7
グリッド73	6,117	670	12.02%	24	138.1
グリッド74	6,541	853	12.86%	15	95.3
グリッド75	1,953	309	3.84%	8	49.8
グリッド76	791	101	1.55%	2	9.1
グリッド77	812	62	1.60%	0	0
計	50,884	4892	100.00%	70	416

第２表　グリッド別土器・剥片出土重量

第３表　土器観察表①

掲載No.	出土地点	器種	口縁残存	底部残存	口径(cm)	最大径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	口唇形状	口唇部	頭　部	胴　部	原　体	備　考	色　調	混入物
1	SK01埋土上位	壺											LRヨコ		にぶい黄橙	
2	SK06埋土上位	鉢	○						平	沈線	沈線3		LRヨコ		にぶい黄褐	砂少量
3	SK06埋土上位	鉢	○						平・突起	刻目	無文・刺突	沈線文	LR	ミガキ	にぶい黄褐	
4	SK02埋土上位	深鉢	○						平				LRヨコ	粗製	橙	砂少量
5	SK02底面	鉢	○							刻目・沈線・刻目・沈線			LRヨコ	口縁屈曲・内面炭化物	橙	
6	SK02埋土	鉢	○		10.5	12.4			波	刻目	無文・刻目	沈線2・沈線文	LRヨコ	口縁内側に沈線・ミガキ	灰黄褐	
7	SK02埋土上位	鉢							波	沈線		沈線	RLヨコ	口縁内側に沈線・ミガキ	にぶい黄橙	
8	SK02トレンチ	浅鉢	○						平			沈線文	RL	ミガキ	にぶい黄褐	
9	SK02埋土上位	台付鉢	○	○	14.9	14.9	9.7	12.7	平	刻目・沈線（内）	無文・刺突・大突起1	雲形文・沈線	RL	台部に渦巻文・内外面炭化物	にぶい黄橙	砂少量
10	SK02埋土上位	台付鉢		○			6.7						LRヨコ	台部無文	にぶい黄橙	
11	SK02埋土上位	台付鉢	○	○	8.2	8.2	5.2	5.6	平	刻目・突起1		地文のみ	RL	台部は無文	にぶい黄橙	砂少量
12	グリッド68Ⅳb下位	深鉢	○						平		地文	地文	RL		明褐	砂多量
13	グリッド68Ⅳb中位・69Ⅳb中位	深鉢	○						平	B突起		地文	RL		にぶい黄褐	砂少量
14	グリッド71Ⅳb中位	深鉢	○						平			地文	RL	外面炭化物	橙	砂多量
15	グリッド74Ⅳb上位	深鉢	○						平	押圧	地文		LR	穿孔	橙	砂多量
16	グリッド73Ⅲ・73Ⅳb上位・73Ⅳb中位・74Ⅳb中位	深鉢	○		23.9	25.0	7.8	22.9	平・B突起	刻目・沈線（内）・沈線3		地文のみ	RL	ミガキ・内外面炭	にぶい褐	砂少量
17	70Ⅳb上位・70Ⅳb中位・71Ⅳb中位	深鉢	○	○	16.2	17.7	6.3		平	刻目・沈線（内）	沈線・無文・沈線・B突起	地文のみ	LR	内面炭化物	にぶい黄橙	
18	グリッド72Ⅲ・72Ⅳb上位・72Ⅳb中位	深鉢	○		18.5	19.4			平・B突起	山形突起・沈線（内）	沈線4	地文のみ	RL	ミガキ	にぶい黄橙	砂少量
19	グリッド70Ⅳb中位	深鉢	○						平	押圧	沈線6？不整	地文	LR		にぶい黄褐	砂少量
20	グリッド71Ⅳb中位・72Ⅳb上位	深鉢	○		－		－	－		押圧	沈線8		RLヨコ		にぶい黄橙	砂多量
21	グリッド71Ⅳb上位	深鉢	○						平	押圧	沈線7	残存なし			褐	砂多量
22	グリッド74Ⅳa中位	深鉢	○						平	沈線（内）・押圧	沈線5	残存せず不明		内面炭化物	にぶい褐	砂少量
23	グリッド71Ⅳb中位	深鉢	○						平	刻目	沈線・無文・沈線	地文	RL		橙	砂多量
24	グリッド71Ⅳb上位・71Ⅳb中位	深鉢	○		21.0	22.0			平・小波	紐貼付	沈線・無文・沈線	地文のみ	LR		明褐	砂少量
25	グリッド74Ⅳb中位	深鉢	○						平	押圧	無文		なし		にぶい黄橙	砂多量
26	グリッド77Ⅳa上位	深鉢	○						平	押圧	沈線・無文	残存せず不明			明褐	砂多量
27	グリッド72Ⅳb上位	深鉢	○		－	－				押圧	条痕				にぶい褐	砂多量
28	グリッド73Ⅲ	深鉢	○						平	押圧	無文				にぶい黄褐	砂多量
29	グリッド72Ⅳb上位･73Ⅳb中位	深鉢	○		27.2	28.8	－	－	波	沈線	沈線3		RLヨコ	口縁内側に沈線	にぶい黄橙	砂多量
30	グリッド71Ⅳb上位・71bⅣb中位	鉢	○						波	沈線（内・上）	沈線5	地文のみ	RL		橙	砂少量
31	グリッド73Ⅳb上位	鉢	○						平	刻目・突起	沈線3		LRヨコ	口縁内側に沈線・内面炭化物	褐	
32	グリッド72Ⅳb下位	鉢	○						波	沈線（内・上）	沈線3		RL		にぶい黄褐	
33	グリッド67Ⅳb下位	鉢	○						波	沈線（内）	沈線3	地文	RL	内外面炭化物	にぶい黄橙	
34	グリッド71Ⅳb上位	鉢	○						波		沈線4				にぶい黄橙	
35	グリッド74Ⅳb上位	鉢									沈線5・刺突	地文	LR	ミガキ	灰黄褐	
36	グリッド69Ⅳc	鉢							平	刻目	沈線5・刺突	地文	LR	ミガキ	にぶい黄橙	
37	グリッド65Ⅳb中位	鉢	○						平・突起	沈線（上）・刻目	沈線・刻目・刺突	無文	RL	ミガキ	にぶい黄橙	
38	グリッド69Ⅳb上位・70Ⅳb中位・71Ⅳb中位	鉢	○		17.5	18.5			波	沈線	日		LRヨコ	口縁内側に沈線・内面炭化物	橙	
39	グリッド72Ⅳb上位	鉢	○		－	－			波	沈線	日	沈線		口縁内側に沈線・ミガキ	にぶい黄橙	砂少量
40	グリッド71Ⅳb中位・72Ⅳb上位･73Ⅳb上位	鉢	○						波	沈線（上・内）	沈線・刺突	沈線	LRヨコ	ミガキ	にぶい黄橙	砂少量
41	グリッド71Ⅳb中位・72Ⅳb中位	鉢	○						波	沈線	匹字・沈線	沈線・地文	LR	内面炭化物	にぶい黄橙	
42	グリッド70Ⅳb上位・71Ⅳb上位・71Ⅳb中位	鉢	○		25.3	16.8			平	刻目・沈線（内）	沈線・無文	地文のみ	LR	ミガキ・内面炭化物	にぶい黄橙	
43	グリッド67Ⅳb中位・68Ⅳb中位	鉢	○		14.0	14.5			平・突起	沈線（内）・地文	無文・突起	沈線・地文	RL		橙	砂少量
44	グリッド72Ⅳb上位	鉢	○						平・突起	刻目	沈線・無文	地文のみ	RL	内面炭化物	明褐	砂少量
45	グリッド73Ⅳb上位	鉢	○							指頭圧痕	無文	地文	LR		にぶい橙	砂少量
46	グリッド71Ⅳb中位	鉢	○						平	刻目	沈線・無文・沈線	地文のみ	RL	内面炭化物・ミガキ	にぶい黄褐	
47	グリッド71Ⅳb中位	鉢	○						平	沈線（内）・刻目	沈線2	地文	LR		にぶい黄褐	
48	グリッド74Ⅳb中位	鉢	○						平		無文	地文のみ	RL	内外面炭化物	にぶい黄橙	

第３表　土器観察表②

掲載No.	出土地点	器種	口縁残存	底部残存	口径(cm)	最大径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	口唇形状	口唇部	頸　部	胴　部	原　体	備　考	色　調	混入物
49	グリッド73Ⅳb中位	鉢	○						平	突起	沈線・無文・沈線・突起	地文のみ	RL	ミガキ・内面炭化物	にぶい黄橙	
50	グリッド77Ⅳa上位	鉢				7.6					沈線2・B突起	地文のみ	LR		にぶい黄橙	
51	グリッド74Ⅳa中位	鉢	○						平・突起	沈線（上・内）・突起	沈線・無文・沈線	地文のみ	RL		にぶい橙	砂少量
52	グリッド74Ⅳb中位	鉢	○						平・突起		無文	地文のみ	LR		にぶい黄橙	
53	グリッド71Ⅳb上位・71Ⅳb中位・72Ⅳa上位・73Ⅳb下位	鉢	○		8.8	10.0				RLヨコ	沈線・無文・沈線・突起		RLヨコ		にぶい黄橙	砂少量
54	グリッド74Ⅳb中位	鉢	○						小波	沈線（内）	無文・刺突・沈線	刺突・沈線	LRタテ	ミガキ	にぶい黄褐	
55	グリッド71Ⅳb上位	鉢	○						小波	瘤状貼付	無文・刻目			口縁内側に沈線	橙	砂少量
56	グリッド67Ⅳb中位	鉢	○						平	刻目・沈線（内）	沈線・無文・刺突・沈線	沈線文			にぶい黄褐	
57	グリッド67Ⅳb下位・68Ⅳb下位	鉢	○						波	沈線（上・内）	沈線3	沈線文・磨消	RL	ミガキ	にぶい黄橙	
58	グリッド70Ⅳb下位	鉢	○						波	沈線	沈線2	沈線文	RL	ミガキ	にぶい黄褐	
59	グリッド74Ⅳb中位	鉢	○	○	9.5	9.5	4.0	8.3	平	突起4	なし		LRヨコ	ミガキ	にぶい黄褐	
60	グリッド71Ⅳb上位・71Ⅳb中位	鉢	○	○	11.9	11.9	5.5	11.1	平	刻目・突起3	沈線1	地文のみ	LR	ミガキ	にぶい黄橙	
61	グリッド74Ⅳa中位	鉢	○						平	刻目	沈線2	地文のみ	RL		にぶい黄橙	
62	グリッド71Ⅳb中位	鉢	○						平	刻目	沈線3・瘤状突起	地文のみ	RL		にぶい黄橙	砂少量
63	グリッド71Ⅳb上位・71Ⅳb中位・72Ⅳb上位	鉢	○						平		沈線3・瘤貼付	地文のみ	RL	内面炭化物	にぶい黄褐	砂少量
64	グリッド73Ⅳb上位	鉢	○						平	沈線（内）・地文	沈線2		RL		にぶい黄褐	砂少量
65	グリッド69Ⅳb下位	鉢	○						平	沈線2		地文	RL		にぶい黄橙	砂多量
66	グリッド68Ⅳb中位	鉢	○						波	内へ屈曲・沈線2・瘤			RL		にぶい黄橙	
67	グリッド68Ⅳb中位・69Ⅳb中位・69Ⅳb下位・70Ⅳb中位	台付鉢	○	○	15.2	15.4	8.0	14.1	平	刻目・突起	沈線・無文・沈線	地文のみ	RL	ミガキ	にぶい黄橙	
68	グリッド71Ⅳb上位・71Ⅳb中位	台付鉢	○	○	14.0	14.0	7.5	13.3	波	沈線（内）	沈線3	地文のみ	RL	台部無文	にぶい橙	砂少量
69	グリッド68Ⅳb上位・69Ⅳb上位	台付鉢	○	○	9.8	11.4	5.9	9.8	平	刻目	無文・隆帯	沈線・地文	LR	ミガキ	にぶい黄橙	
70	グリッド76Ⅳb中位	台付鉢		○			10.4							台部無文	にぶい黄橙	砂多量
71	グリッド71Ⅳb中位	台付鉢		○			6.7						LR	台部に地文	にぶい橙	
72	グリッド75Ⅳb上位	台付鉢	○	○			9.6						LRヨコ	台部沈線5・一部タテ	にぶい橙	砂多量
73	グリッド73Ⅳb中位	台付鉢		○										台部無文	にぶい黄橙	砂少量
74	グリッド70Ⅳb中位	台付鉢		○			8.0					地文	RL	台部無文	にぶい黄橙	砂少量
75	グリッド73Ⅳb上位	台付鉢ミニ	○	○	5.7	6.2	3.8	3.9	波？		貼付	無文			にぶい黄橙	
76	グリッド72Ⅳb下位・73Ⅳb上位	浅鉢	○	○					平	沈線（上）・刻目	無文・沈線2・波状突起		RLヨコ		にぶい黄橙	砂少量
77	グリッド73Ⅳb中位	浅鉢	○						平	沈線（内）・地文	沈線・無文・沈線	地文	RL		にぶい黄橙	砂少量
78	グリッド71Ⅳb中位	浅鉢	○						平	刻目・沈線（内）	沈線3・隆帯	地文	LR		にぶい黄橙	砂少量
79	グリッド71Ⅳb上位・72Ⅳb上位・72Ⅳb中位	浅鉢	○		14.6				平	沈線（内）・刻目	沈線2・隆帯	匹字文		ミガキ	橙	
80	グリッド75Ⅳb上位	浅鉢	○						平・B突起	刻目	隆帯・沈線		LR	ミガキ・内面炭化物	灰黄褐	
81	グリッド75Ⅳb上位	浅鉢									沈線	沈線	LR	ミガキ	にぶい褐	
82	グリッド74Ⅳb中位	浅鉢	○						平	沈線（上・内）	沈線3・突起	沈線文	あり	内面ミガキ・赤彩	にぶい橙	砂少量
83	グリッド69Ⅳb下位	浅鉢	○						平・突起	沈線（内）・刻目	沈線・無文	沈線文	LR	ミガキ	にぶい黄褐	
84	グリッド70Ⅳb中位	浅鉢	○						平・突起	沈線（内）	無文	上半：沈線		ミガキ	にぶい黄橙	
85	グリッド70Ⅳb中位	浅鉢	○	○	13.0	13.0	5.6	6.0	平		沈線3	地文のみ	LR		にぶい黄橙	砂少量
86	グリッド73Ⅳb中位	浅鉢	○						平	沈線（内）・地文	沈線・無文・沈線	地文	RL		にぶい黄橙	砂少量
87	グリッド71Ⅳb上位・71Ⅳb中位・72Ⅳb上位	浅鉢	○		12.5	13.4			平		無文		LRヨコ		にぶい黄橙	
88	グリッド68Ⅳb中位・69Ⅳb下位	浅鉢	○						平	山形突起・沈線	沈・無・沈	地文のみ	RL		にぶい黄橙	砂少量
89	グリッド70Ⅳb中位	浅鉢	○						平	沈線（内2）	沈線2	無文		内外面ミガキ	にぶい黄橙	
90	グリッド72Ⅲ	浅鉢	○						平	沈線（内）	沈線2	無文		内外面ミガキ	にぶい黄橙	
91	グリッド74Ⅳa中位	浅鉢							平			無文	なし		赤褐	砂少量
92	グリッド73Ⅳb上位	浅鉢	○	○	14.0	14.0	丸底	3.0	平	沈線（上）		無文	なし		にぶい黄橙	砂多量
93	グリッド71Ⅳb中位・72Ⅳb中位	浅鉢ミニ	○	○	7.6	7.6	3.4	2.9	平		沈線2	沈線（底付近）	LR	ミガキ	にぶい黄橙	
94	グリッド71Ⅳb上位・71Ⅳb中位	浅鉢ミニ	○	○	8.4	8.4	丸底	3.4	平				RLヨコ		にぶい黄橙	砂少量
95	グリッド71Ⅳb中位	浅鉢	○						平			地文	RL		黄褐	
96	グリッド70Ⅳb中位	鉢		○			5.0					地文	RL		橙	

第３表　土器観察表③

掲載№	出土地点	器種	口縁残存	底部残存	口径（cm）	最大径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	口唇形状	口唇部	頸　部	胴　部	原　体	備　考	色　調	混入物
97	グリッド71Ⅳb中位	鉢		○			4.5					地文 不明	LR		にぶい黄褐	
98	グリッド71Ⅳb中位	鉢		○			5.2						LR		にぶい褐	
99	グリッド71Ⅳb中位	鉢		○			4.7						RLヨコ		にぶい黄橙	
100	グリッド73Ⅲ	鉢		○			3.5					地文	RL		にぶい橙	砂少量
101	グリッド71Ⅳb中位	鉢		○			6.4								にぶい黄橙	砂少量
102	グリッド75Ⅳb上位	鉢		○			3.8					無文			にぶい黄橙	砂少量
103	グリッド73Ⅲ	鉢		○			5.1						なし	切断？	にぶい黄橙	砂多量
104	グリッド71Ⅳb上位71Ⅳb中位・72Ⅳb中位	深鉢		○			5.1					地文のみ	RL		にぶい黄橙	砂多量
105	グリッド70Ⅳb中位	深鉢		○			5.4					地文	LR		にぶい橙	砂多量
106	グリッド69Ⅳb中位・69Ⅳb下位	深鉢		○			9.8					地文のみ	LR		にぶい黄褐	砂多量
107	グリッド67Ⅳb中位	深鉢		○			9.0					地文	RL		明赤褐砂多	砂多量
108	グリッド71Ⅳb中位	深鉢		○			8.2						RL	横方向に圧痕	橙	砂多量
109	グリッド68Ⅳb中位・69Ⅳb下位	深鉢		○								地文	RL		にぶい黄橙	砂少量
110	グリッド74Ⅳb中位	壺									無文	沈線文			にぶい黄橙	
111	グリッド71Ⅳb上位・71Ⅳb中位	壺				26.7						上半のみ沈線タテ・ヨコ・曲線	LR		にぶい黄橙	
112	グリッド70Ⅳb中位・71Ⅳb上位・71Ⅳb中位	壺				26.7						上半のみ沈線タテ・ヨコ・曲線	LR		灰黄褐	
113	グリッド67Ⅳb中位・68Ⅳb中位	壺	○	○	11.1	27.8	7.8		平		沈線・無文		RLヨコ		にぶい黄橙	砂多量
114	グリッド74Ⅲ	壺	○	○	5.2	9.0		8.2	平		無文		RLヨコ		にぶい黄橙	砂少量
115	グリッド74Ⅳb上位	壺	○	○	6.5	10.6	4.1	10.2	平		沈線2・無文	沈線・沈線文	RL	ミガキ	にぶい黄橙	
116	グリッド70Ⅳb中位・70Ⅳb下位	壺	○		7.5	12.8			平	沈線（内）・地文・沈線	無文		RL		にぶい黄橙	砂少量
117	グリッド71Ⅳb中位	壺	○		9.0				平	一部山形・沈線（内・上）	無文			ミガキ	にぶい黄橙	
118	グリッド74Ⅳb上位	壺	○						波	沈線2（内）・沈線・瘤状突起	沈線・無文				にぶい黄橙	砂多量
119	調査区東表採	壺	○		5.4				平	沈線2	無文			赤彩	にぶい黄橙	
120	調査区東表採	壺	○		6.0				平・突起		無文				にぶい橙	
121	グリッド73Ⅳb上位	壺										沈線タテ・ヨコ	LRヨコ		明黄褐	砂多量
122	グリッド72Ⅳb上位·73Ⅳb上位・73Ⅳb中位	壺		○			5.5					無文		外面ミガキ	にぶい橙	砂少量
123	グリッド74Ⅲ・75Ⅳb上位	壺		○		10.3	4.8						RLヨコ		橙	砂多量
124	調査区東表採	壺ミニ	○		3.0	5.1			平			無文	なし		にぶい黄橙	砂少量
125	グリッド77Ⅳa上位	壺ミニ	○	○	2.1	3.0	丸底	2.8	平			無文	なし		にぶい橙	
126	グリッド77Ⅳa上位	壺ミニ		○		2.9	2.9					無文	なし		にぶい黄橙	砂少量
127	グリッド70Ⅳb中位	注口			1.3								なし	注口部のみ	橙	
128	グリッド74Ⅳb中位	浅鉢？											なし	舟型？口唇部に突起	にぶい黄橙	砂少量
129	調査区東表採	土偶											RL		明褐	砂少量

第４表　石器観察表

掲載№	器種	出土地点	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石質	産地	時代
201	石鏃	SK2　SE　埋土下位	2.70	1.70	0.50	1.8	チャート	北上山地	中生代三畳紀～ジュラ紀
202	石鏃	グリッド25　Ⅳb	5.00	1.50	0.60	2.8	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
203	石鏃	グリッド72　Ⅳa中位	3.90	1.35	0.70	2.7	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
204	石鏃	グリッド74　Ⅳb中位	2.25	1.30	0.75	1.6	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
205	石匙	調査区内東　表土	3.20	3.70	1.10	10.2	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
206	石匙	グリッド70　Ⅳa中位	4.50	＊5.00	1.10	＊15.4	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
207	石錐	グリッド74　Ⅳb中位	3.30	1.25	0.75	1.8	メノウ	奥羽山脈	新生代
208	石錐	グリッド74　Ⅳb中位	＊3.00	0.70	0.45	＊1.3	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
209	石錐	調査区外畑　表採	＊2.65	1.20	0.75	＊2.7	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
210	楔形	グリッド73　Ⅳb中位	2.20	2.60	1.00	6.8	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
211	石錐？	調査区外畑　表採	3.40	2.70	0.80	3.3	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
212	石匙？	グリッド69　Ⅳb上位	＊3.70	＊2.70	0.80	＊8.0	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
213	石鏃？	グリッド71　Ⅳb上位	3.40	2.05	0.90	3.9	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
214	二次加工	調査区外畑　表採	＊1.30	2.20	0.65	＊1.6	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
215	二次加工	調査区内東　表土	＊1.30	1.80	0.35	＊1.0	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
216	二次加工	調査区内東　表土	3.50	2.70	1.00	8.6	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
217	二次加工	調査区内東　表土	5.65	3.30	1.20	21.3	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
218	石核	調査区内東　表土	4.00	4.95	3.85	56.0	頁岩	北上山地	中生代三畳紀～ジュラ紀
219	石核	調査区内東　表土	3.80	4.00	2.70	47.4	頁岩	北上山地	中生代三畳紀～ジュラ紀
220	石核	グリッド75　Ⅳb上位	4.20	4.30	1.60	36.2	頁岩	北上山地	中生代三畳紀～ジュラ紀
221	石核	調査区外畑　表採	6.20	8.10	3.00	198.6	頁岩	北上山地	中生代三畳紀～ジュラ紀
222	岩版	グリッド66　Ⅳb中位	＊4.20	5.20	1.50	10.4	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
223	磨製石斧	グリッド73　Ⅳb中位	＊2.65	＊1.70	＊1.25	＊5.1	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
224	石棒	グリッド73	＊5.10	2.95	2.50	41.9	砂岩	北上山地	中生代三畳紀～ジュラ紀
225	石棒	グリッド74　Ⅳb中位	＊6.55	＊3.30	＊0.60	＊18.3	粘板岩	北上山地	中生代三畳紀～ジュラ紀
226	石棒	グリッド72　Ⅳb上位	＊5.10	2.70	0.40	＊10.2	粘板岩	北上山地	中生代三畳紀～ジュラ紀
227	石棒	グリッド66　Ⅳb中位	＊5.85	2.45	＊0.70	＊10.5	粘板岩	北上山地	中生代三畳紀～ジュラ紀
228	石棒	グリッド53　Ⅳa上面	＊11.25	＊4.30	0.90	＊56.5	ホルンフェルス	北上山地	中生代白亜紀に変成
229	石棒	グリッド73　Ⅳb中位	＊13.90	4.10	0.80	＊80.0	粘板岩	北上山地	中生代三畳紀～ジュラ紀
230	石製円盤	グリッド74　Ⅳb中位	5.60	6.05	2.15	115.0	デイサイト	奥羽山脈	新生代新第三紀
231	磨石	グリッド72　Ⅳb中位	＊6.90	＊6.05	5.50	＊232.6	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
232	磨石	グリッド73　Ⅳb上位	11.00	6.80	4.00	479.3	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
233	凹石	グリッド77　Ⅳa上位	8.65	6.70	3.75	262.5	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
234	凹石	グリッド51　Ⅳa上位	11.80	7.15	4.15	462.3	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀
235	礫器	グリッド66　Ⅳb中位	＊11.60	7.50	5.10	549.5	閃緑岩	北上山地	中生代白亜紀
236	石皿	調査区外畑　表採	＊11.50	＊13.40	4.00	＊925.4	デイサイト	奥羽山脈	新生代新第三紀
237	石皿	調査区外畑　表採	＊10.00	12.30	5.30	＊1012.0	安山岩	奥羽山脈	新生代第四紀
238	石皿	グリッド77　Ⅳa上	＊14.70	＊17.60	5.10	＊1800.6	安山岩	奥羽山脈	新生代第四紀
239	石皿	グリッド70　Ⅳb中位	＊11.90	＊16.80	9.20	＊1650.9	デイサイト	奥羽山脈	新生代第四紀

＊印は破損品のため残存値を示す。

V　自然科学分析

上町遺跡における火山灰分析調査報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

は　じ　め　に

岩手県二戸市金田一に所在する上町遺跡は、北上山地北部を流れる馬淵川中流域の左岸に分布する狭小な段丘平坦面上に立地する。大池ほか（1966）による段丘区分では、十和田八戸テフラの火砕流堆積物を段丘構成層とする福岡面に対比されている。

今回の発掘調査では、縄文時代晩期頃とされる陥穴などの遺構や同時期の縄文土器や石器などの遺物が検出されている。この縄文時代晩期の遺物包含層を構成している土層は、黒色を呈する火山灰土いわゆる黒ボク土であるが、その層位には白色粒子の散在が認められている。調査区では、遺物包含層の上位に平安時代10世紀初頭に噴出した十和田ａテフラ（To－ａ）の降下堆積層、下位に縄文時代前期の約6000年前に噴出した十和田中掫テフラ（To－Cu）の降下堆積層が確認されていることから、遺物包含層中の白色粒子についても、テフラに由来する砕屑物である可能性のあることが指摘されている。

今回の分析調査では、この白色粒子を含む包含層中の砕屑物の性状を明らかにし、テフラに由来する砕屑物が確認された場合には、既知のテフラとの対比を行う。

1　試　　料

調査区の基本層序は、上位よりⅠ層からⅦ層まで分層されている。Ⅰ層は盛土であり、Ⅱ層は盛土直下の暗褐色土、その下位のⅢ層がTo－ａの降下堆積層、Ⅴ層がTo－Cuの降下堆積層、Ⅶ層が十和田南部テフラ（To－Nb）の降下堆積層とされている。To－ａとTo－Cuの間層であるⅣ層は、黒ボク土層であり、上位よりⅣａ、Ⅳｂ、Ⅳｃ層に細分されている。これらのうち、Ⅳａ層は黒色を呈する縄文時代の遺物包含層であり、白色粒子の散在が認められている。Ⅳｂ層は黒褐色土、Ⅳｃ層は暗褐色土である。To－CuとTo－Nbの間層であるⅥ層も黒ボク土であり、To－Nbに由来する軽石を少量含む上位のⅥａ層と同軽石を多量に含む下位のⅥｂ層に細分されている。

試料は、28グリッド基本層序１のⅣａ層より採取された黒ボク土１点で、試料にはNo.２の番号が付されている。（第６・７図）

2　分 析 方 法

ここでは、テフラの検出同定により砕屑物全体の状況を確認し、重鉱物組成と火山ガラス比を求め、さらに火山ガラスについては屈折率の測定を行う。各分析法の処理手順は、以下の通りである。

（１）テフラの検出同定

試料約20ｇを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量

の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の３タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

（２）重鉱物・火山ガラス比分析

試料約40ｇに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径１/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径１/４mm－１/８mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスの形態分類は、上述のテフラ分析に準ずる。

（３）屈 折 率 測 定

屈折率の測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

３　結　　果

（１）テフラの検出同定

試料には、中量の軽石と微量の火山ガラスが認められた。軽石は、最大径約７mmであり、灰白色を呈し、発泡不良なものが多く、白色を呈し、発泡のやや良好な軽石も微量含まれる。ただし、後者の軽石は、粒径１mm以下の細粒軽石である。火山ガラスは無色透明の塊状の軽石型である。

また試料中には、径1.5～３mm程度の暗灰色、灰黒色および赤褐色を呈する比較的新鮮な安山岩の岩石片が少量混在し、微量の黒曜石の破砕片と見られる砕屑物も認められた。

（２）重鉱物・火山ガラス比分析

結果を表１、図１に示す。重鉱物組成では、斜方輝石が多く、約60%を占め、次いで不透明鉱物が20数%あり、10数%の単斜輝石を伴うという組成である。火山ガラス比では、軽石型火山ガラスが少量含まれ、極めて微量の中間型も含まれる。

（３）屈 折 率 測 定

結果を図２に示す。火山ガラスは、n1.506－1.510のレンジに入り、n1.507－1.509にモードがある。

４　考　　察

No.２試料のテフラ分析結果から、Ⅳａ層中に認められた白色粒子は軽石であると判断される。上町遺跡の地理的位置と、To－CuとTo－ａに挟まれたⅣａ層の層位に基づけば、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状（町田ほか（1981；1984）、Arai et al.（1986）、町田・新井（2003）

など）との比較から、Ⅳａ層中の軽石は、十和田カルデラを給源とする十和田ｂテフラ（To－ｂ）に由来する可能性がある。また、軽石の色調や発泡度および安山岩片や黒曜石片を伴うことなどは、松山・大池（1986）によるTo－ｂの記載とよく一致する。両輝石からなる重鉱物組成もTo－ｂのそれと同様であり、Ⅳａ層中の軽石がTo－ｂに由来することを支持している。

一方、火山ガラスの屈折率については、町田・新井（2003）に記載されたTo－ｂの火山ガラスの屈折率n1.498－1.501とは明らかにレンジが異なっており、むしろTo－aの火山ガラスの屈折率とレンジが重複する。この結果については、測定した細粒の火山ガラスは、上位のTo－ａ降下堆積層からの落ち込みに由来する可能性と、To－ｂの中でも降下ユニットによって屈折率の異なる火山ガラスが含まれている可能性の両者を想定することができる。降下ユニットによって火山ガラスの屈折率が異なることは、上位のTo－ａでは町田ほか（1981）により確認されている。現時点では、検討材料が不十分なため、両者の可能性のいずれが高いかを判断することはできない。周辺の事例研究も含めて、今後の課題としたい。

なお、To－ｂの噴出年代は、町田・新井（2003）により約2000年前とされている。Ⅳａ層中の軽石がTo－ｂとした場合に、縄文時代晩期の遺物と混在することについては、特に層位的な矛盾はない。

引用文献

Arai, F.・Machida, H.・Okumura, K.・Miyauchi, T.・Soda, T.・Yamagata, K, 1986, Catalog for late quaternary marker-tephras in JapanⅡ－Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido－.Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21, 223-250.

古澤　明　1995　火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌, 101, 123－133.

早川由紀夫・小山真人　1998　日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－.火山, 43, 403－407.

町田　洋・新井房夫　2003　新編　火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.

町田　洋・新井房夫・森脇　広　1981　日本海を渡ってきたテフラ.科学, 51, 562－569.

町田　洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦　1984　テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－.渡辺直経（編）古文化財に関する保存科学と人文・自然科学.同朋舎, 865－928.

松山　力・大池昭二　1986　十和田火山噴出物と火山活動. 十和田科学博物館, No. 4, 1－64, 十和田開発株式会社.

大池昭二・中川久夫・七崎　修・松山　力・米倉伸之　1966　馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰. 第四紀研究, 5, 29－35.

表1　重鉱物・火山ガラス比分析結果

試料名	斜方輝石	単斜輝石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
No.2　28グリッド　Ⅳa層	152	37	59	2	250	0	2	14	234	250

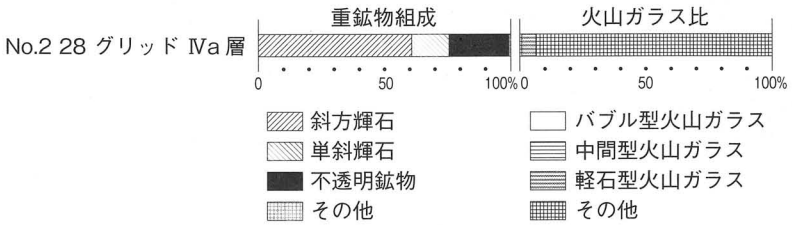


図１　重鉱物組成および火山ガラス比

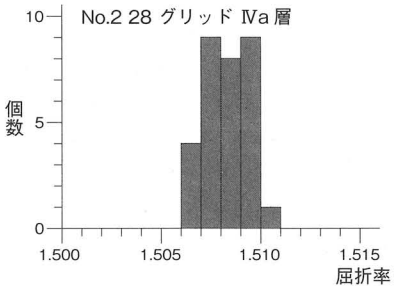
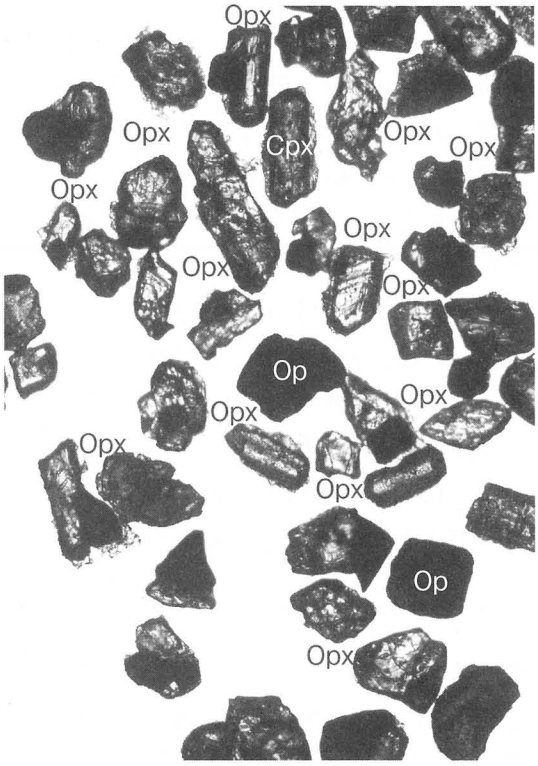


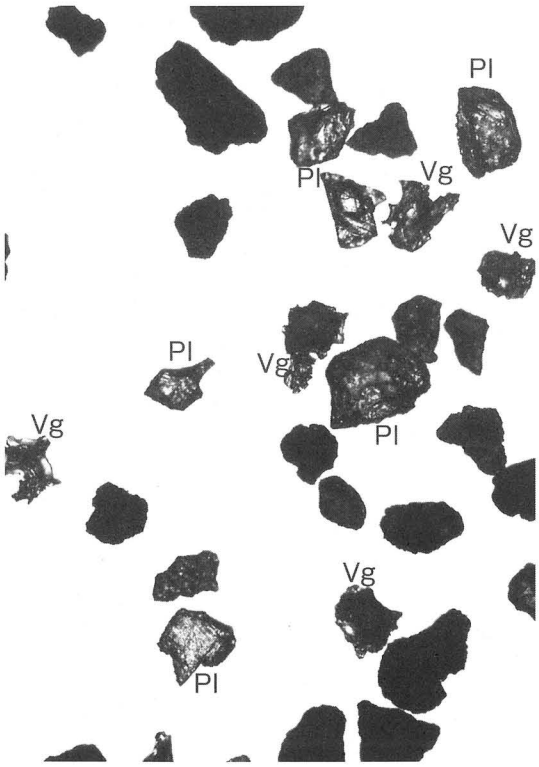
図２　火山ガラスの屈折比

図版１　軽石・重鉱物・火山ガラス

1. 軽石（No. 2　28グリッド　Ⅳa層）



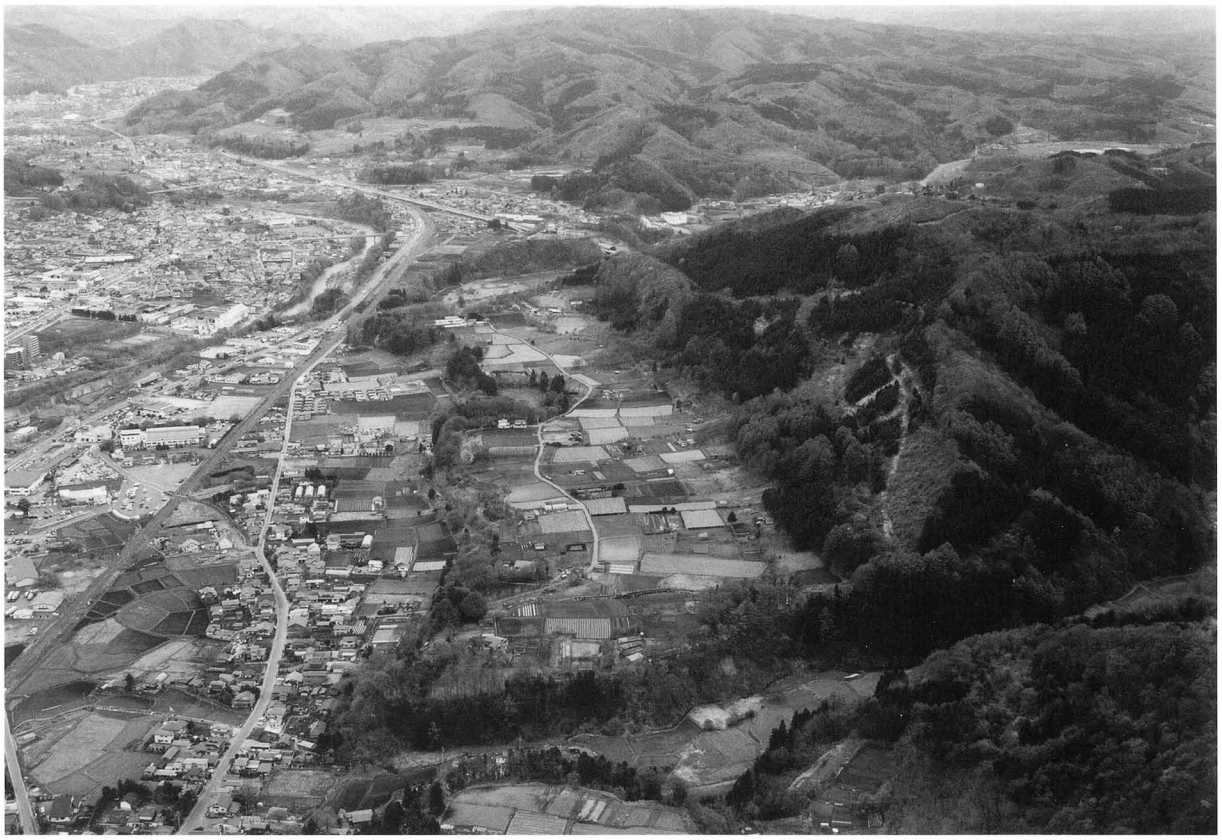
2. 重鉱物（No. 2　28グリッド　Ⅳa層）



3. 火山ガラス（No. 2　28グリッド　Ⅳa層）

2.0mm　1　　0.5mm　2,3

Opx:斜方輝石．Cpx:単斜輝石．Op:不透明鉱物．
Vg:火山ガラス．Pl:斜長石．



遺跡全景（←北）

遺跡周辺（←西）

写真図版１　航空写真（１）

調査区周辺（←北西）

調査区全体（←南西）

写真図版２　航空写真（２）

調査区全景（←南東）

調査区全景（←北西）

写真図版３　遺跡全景

基本層序１（←南）

基本層序４（←南）

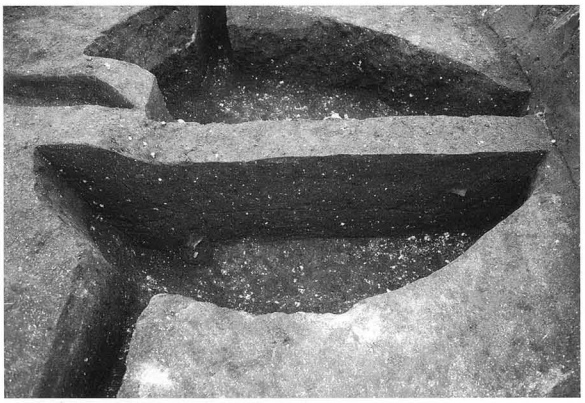
基本層序２（←南）

基本層序３（←南）

写真図版４　基本層序

SK01完掘（←南）

SK05完掘（←北）



SK02断面（←西）

SK02完掘（←西）

SK03検出（←南）

SK03完掘（←南）

SK04・06完掘（←北）

SK04・06完掘（←東）

写真図版５　遺構

遺物出土状況（←東）

写真図版６　遺物出土状況（１）

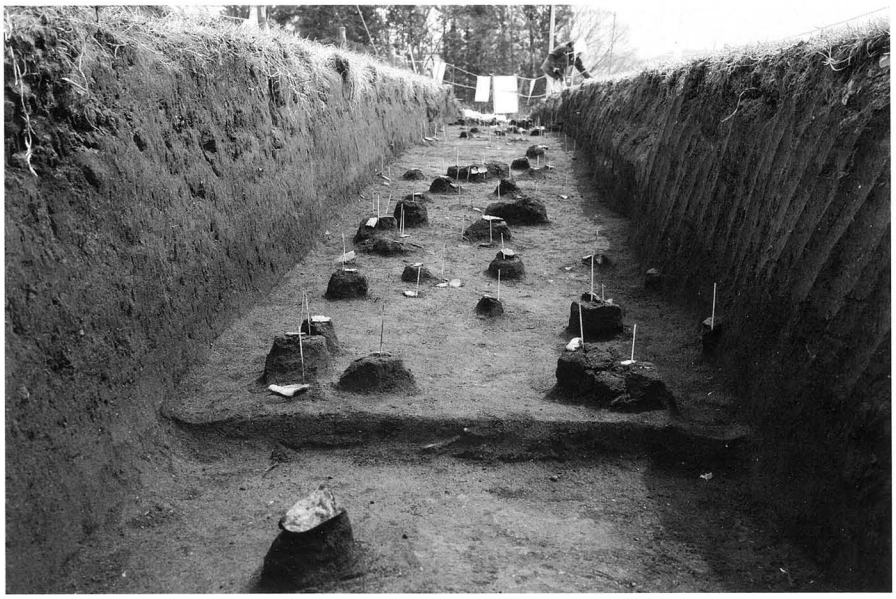
遺物出土状況（←南）

遺物出土状況（←南）

遺物出土状況（←南）

写真図版７　遺物出土状況（２）

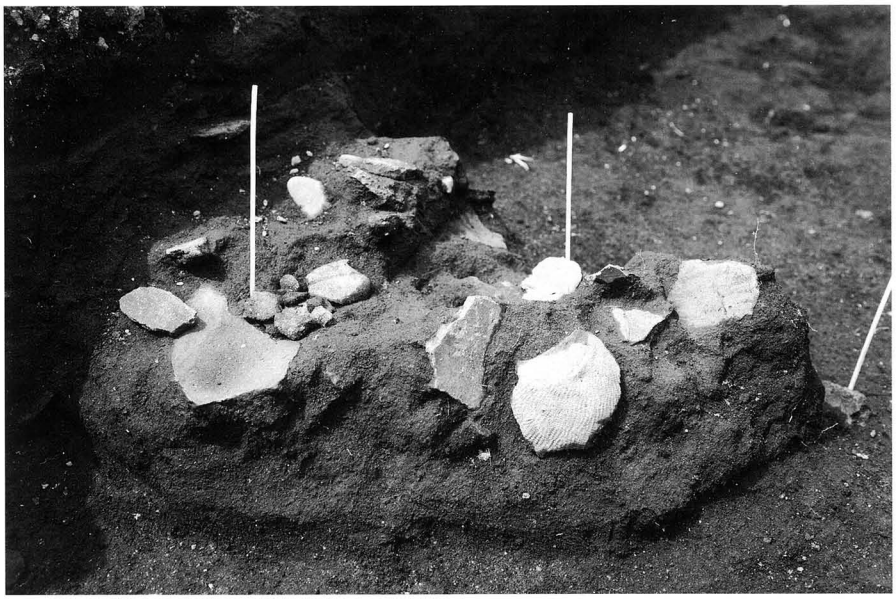
遺物出土状況（←西）



遺物出土状況（←東）

遺物取り上げ状況（←東）

写真図版８　遺物出土状況（３）



遺物出土状況（←西）

遺物出土状況（←南）

遺物出土状況（←西）

写真図版９　遺物出土状況（４）

グリッド１付近（←西）

グリッド11付近（←西）

グリッド25付近（←西）

写真図版10　検出状況（１）

グリッド44付近（←西）

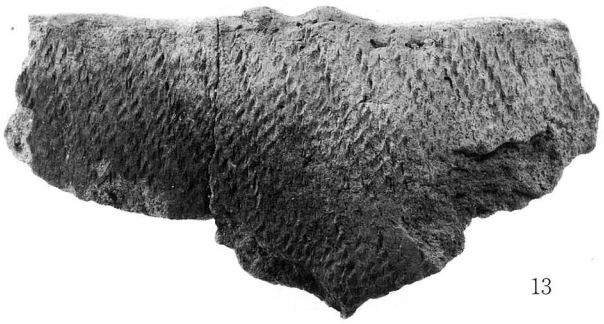
グリッド54付近（←西）

グリッド82付近（←東）

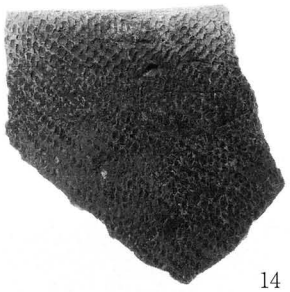
写真図版11　検出状況（2）

写真図版12　土器（1）

12



13



14

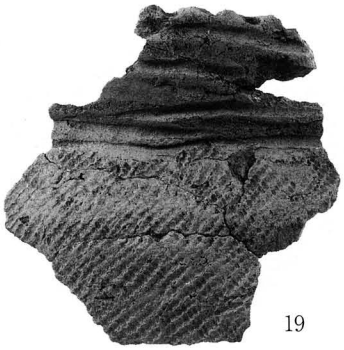
16

15

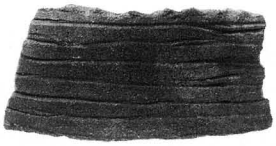
17

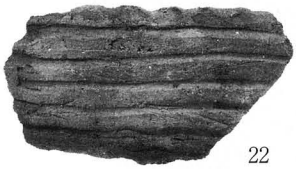
18

写真図版13　土器（2）


19

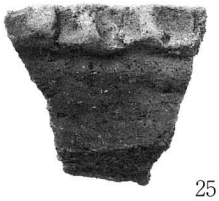
20


21


22

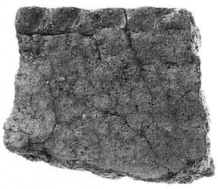
23

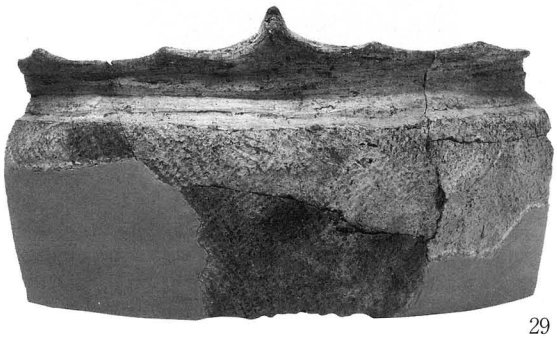
24


25

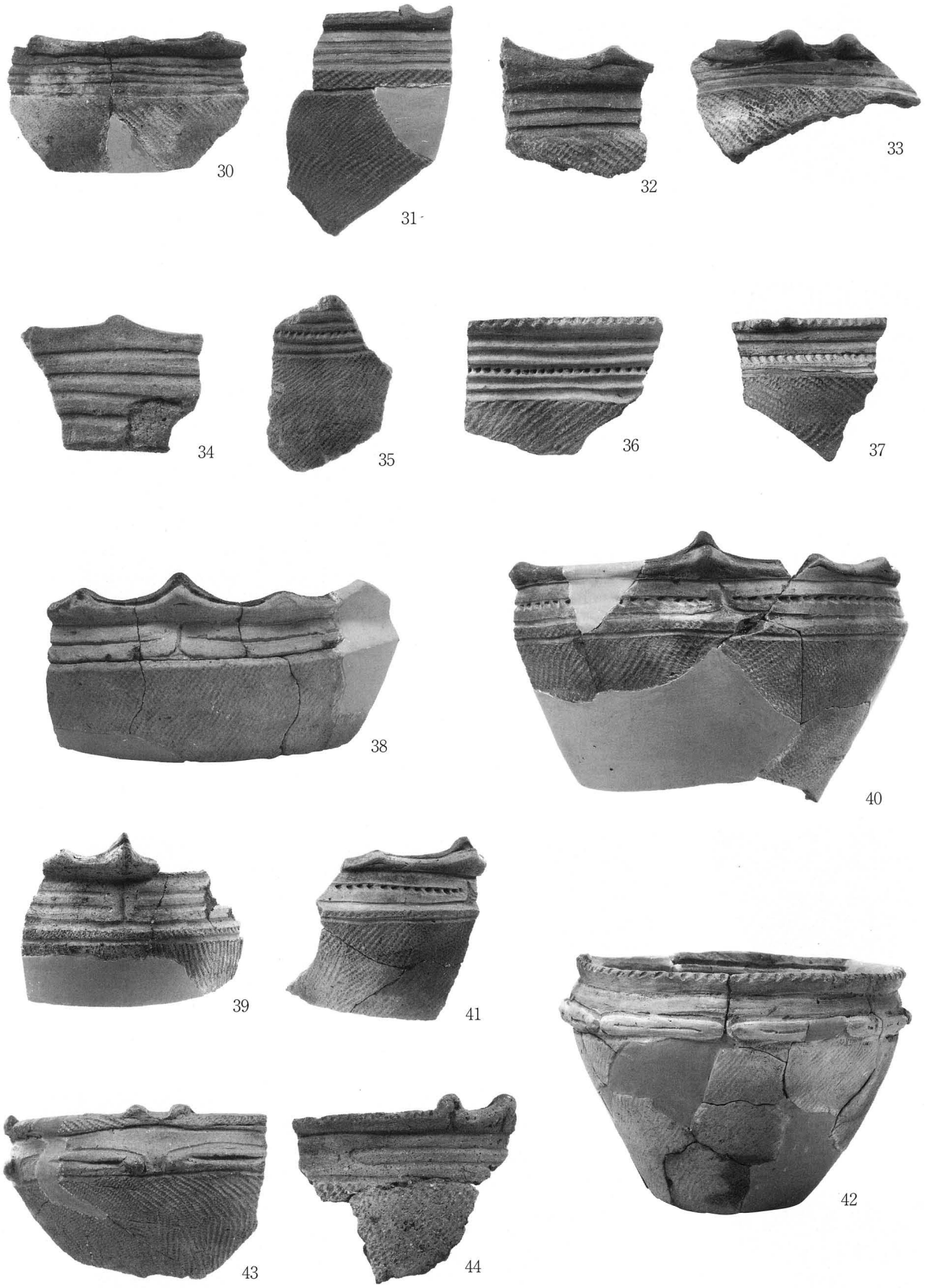
26

27


28


29

写真図版14　土器（3）



写真図版15　土器（4）

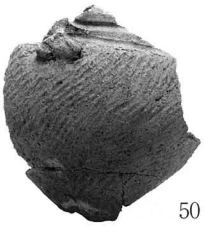
45

46

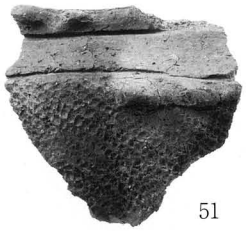
47

48

49

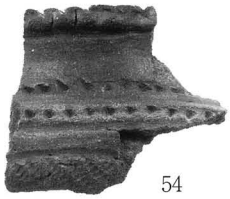

50

53

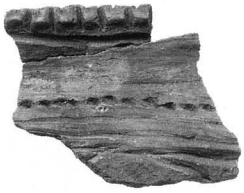

51

52

57


54

55


56

58

59

60

写真図版16　土器（5）

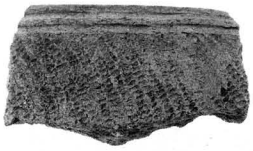
61

62

63

67

64


65

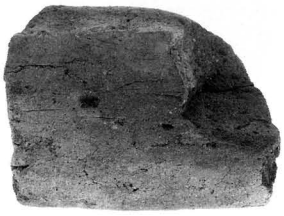
66

68

70

71

72

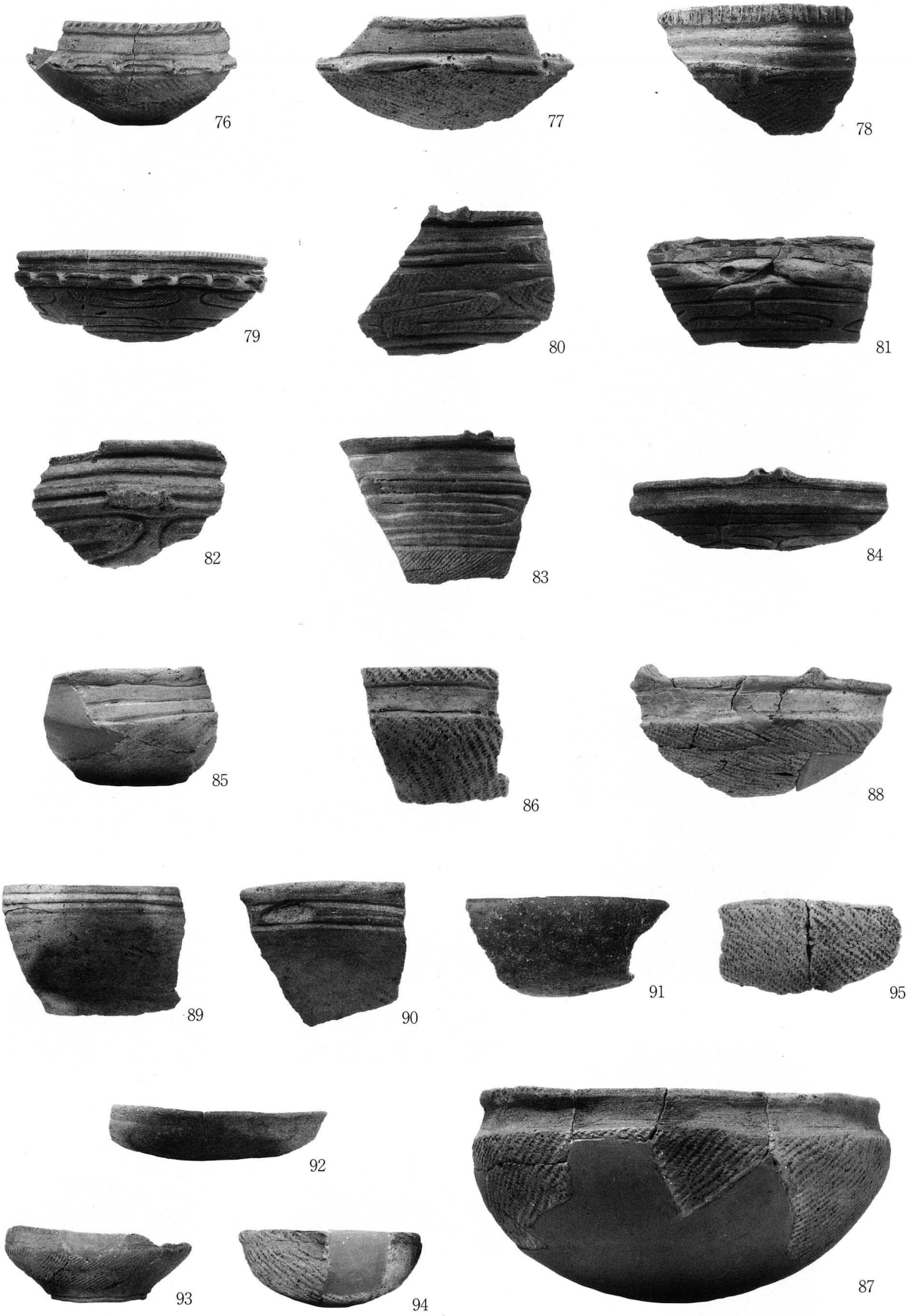

73

69

74

75

写真図版17　土器（6）



写真図版18　土器（7）

96

97

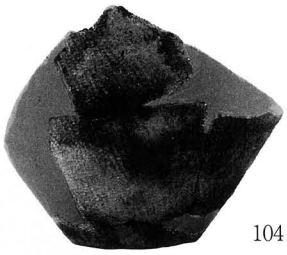
98

99

100

101

102


104

103

105

108

106

109

107

写真図版19　土器（8）

117

118

119

120

121

116

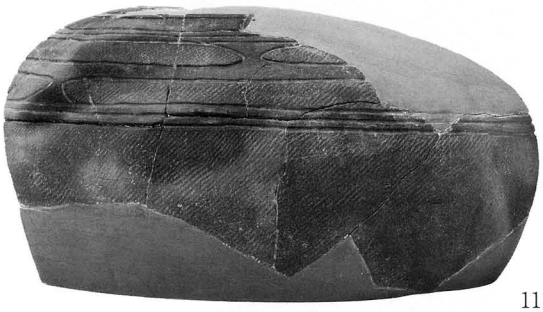
122

123

110

114

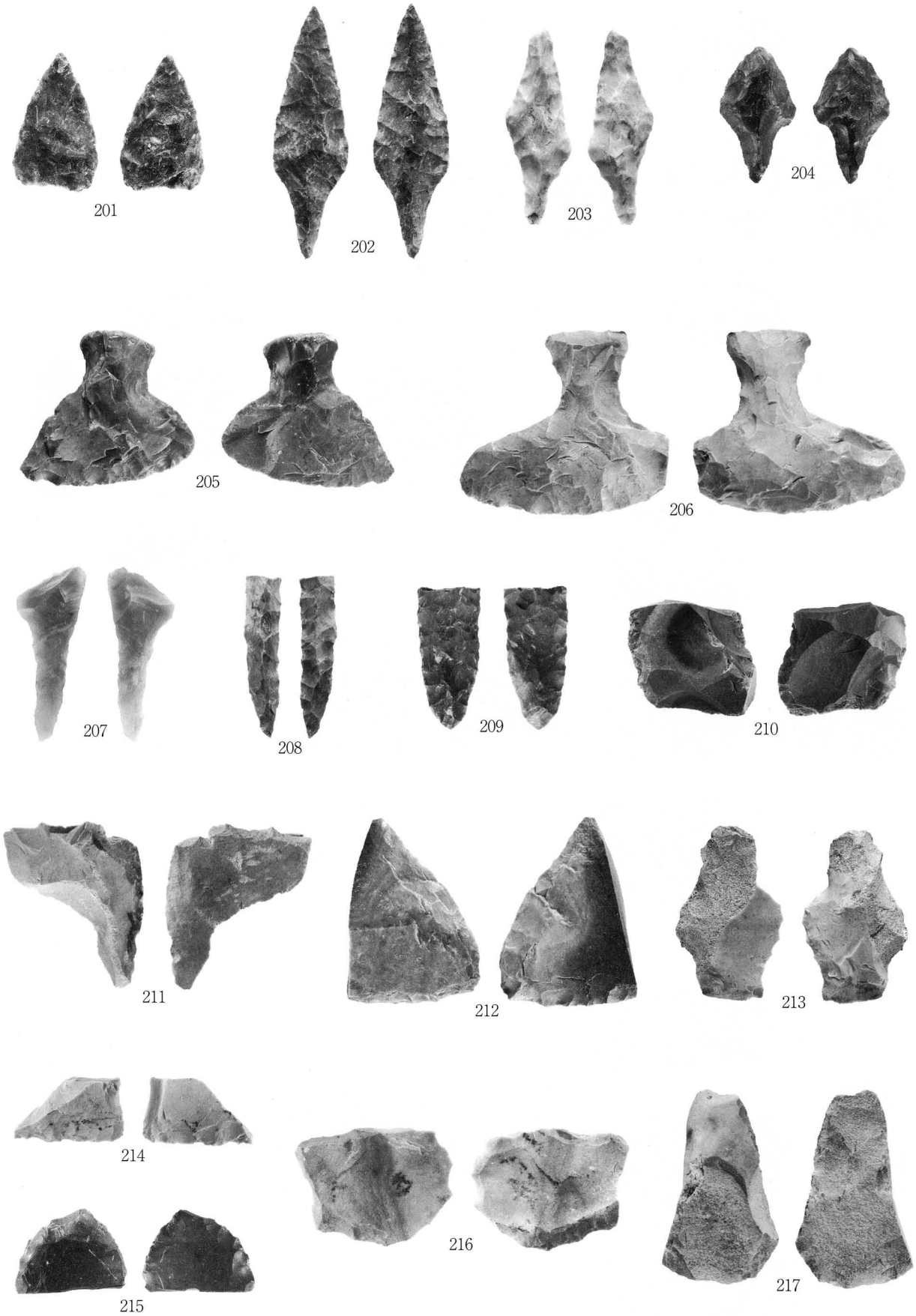
115


111

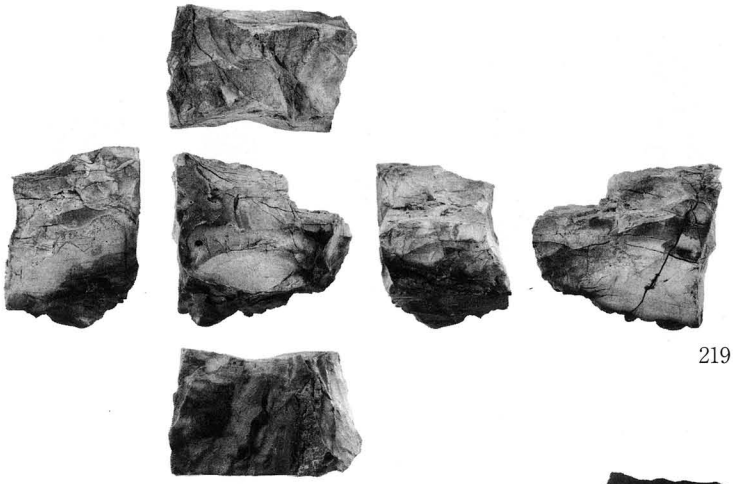
113

112

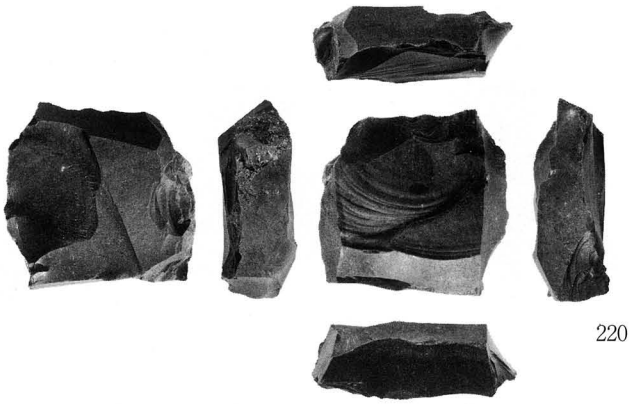
写真図版20　土器（9）


201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217

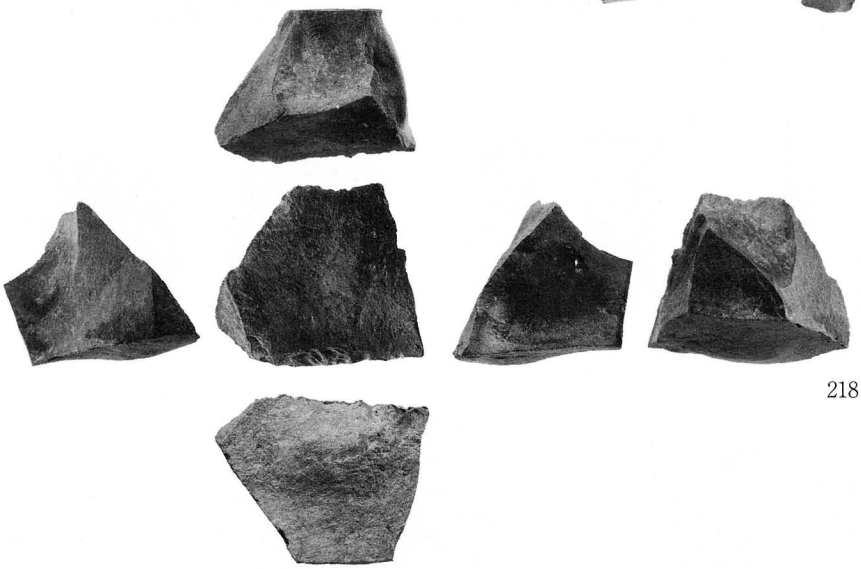
写真図版21　石器（1）



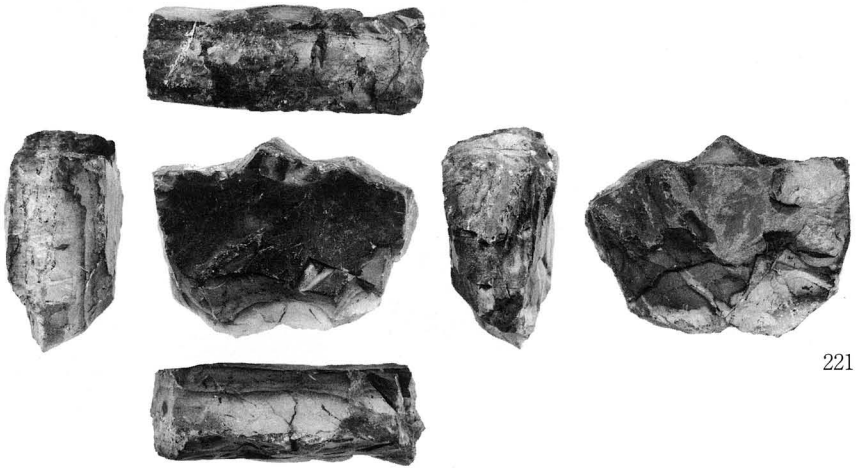
219



220

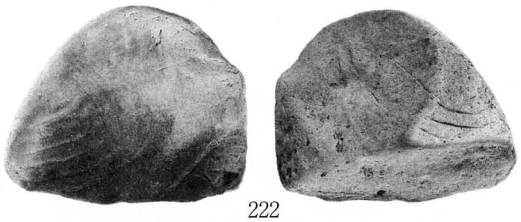


218

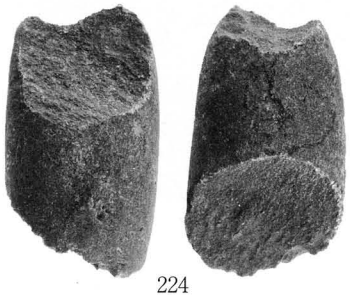


221

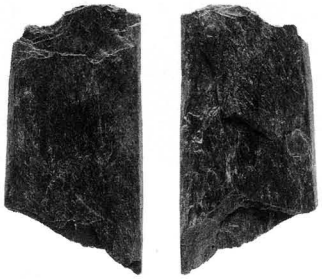
写真図版22　石器（2）


222

223


224

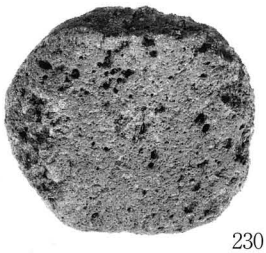
225


226

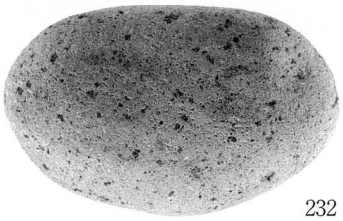
227

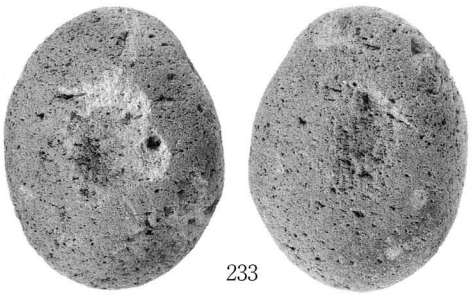
228

229


230

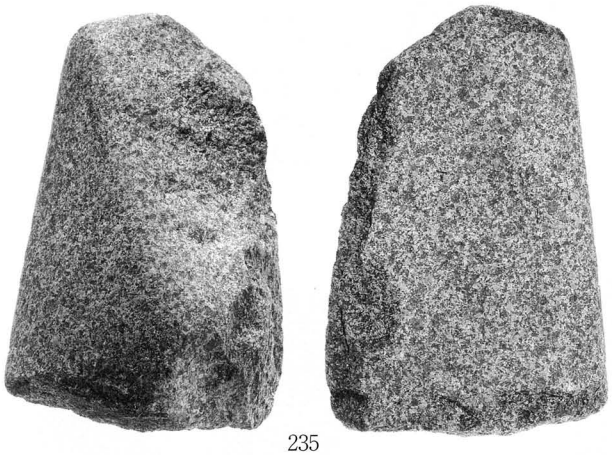
231


232


233

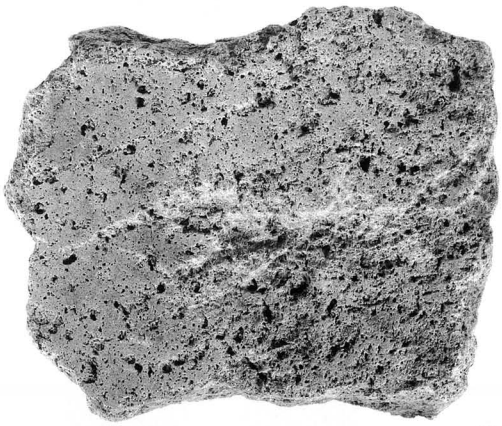
234

写真図版23　石器（3）



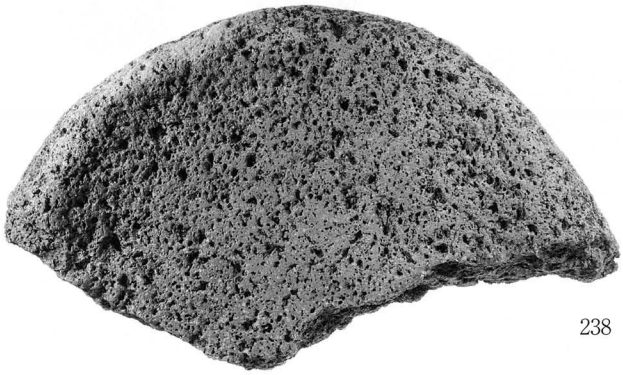
235

237



236

239



238

写真図版24　石器（4）

報告書抄録

ふりがな	かみまちいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	上町遺跡発掘調査報告書
副書名	馬淵川沿岸（一期）農業水利事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第532集
編著者名	川又　晋
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　　TEL（019）638-9001
発行年月日	2008年10月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上町遺跡（かみまちいせき）	岩手県二戸市金田一字新田野26-7ほか（いわてけんにのへしきんたいちあざしんでんの）	03213	IE89－2346	40度18分32秒	141度17分51秒	2007.04.09～2007.05.14	180㎡	馬淵川沿岸（一期）農業水利事業に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上町遺跡	散布地 狩猟場	縄文時代	陥し穴　2基 土　坑　4基 柱穴状土坑　3個	縄文土器晩期中葉（大洞C２式期）深鉢・鉢・浅鉢・台付鉢・壺・土偶 石鏃・石匙・石錐・石核・剥片・磨製石斧・石棒・磨石・凹石・石皿	

要約	上町遺跡は、ＩＧＲいわて銀河鉄道金田一温泉駅の南方約２km、馬淵川左岸の河岸段丘上に立地する。調査区周辺は東向きの緩斜面で、標高122～130mである。平成19年度調査においては、陥し穴２基、土坑４基などを検出した他、遺物包含層では縄文時代晩期中葉（大洞Ｃ２式期）の土器が出土した。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第532集

上町遺跡発掘調査報告書

馬淵川沿岸（一期）農業水利事業関連遺跡発掘調査

印　刷　平成20年10月27日
発　行　平成20年10月31日

編　集　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話（019)638-9001
発　行　農林水産省東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所
〒028-5312　岩手県二戸郡一戸町一戸字大越田98-6
電話（0195)32-2121
(財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023　岩手県盛岡市内丸13番１号
電話（019)654-2235
印　刷　株式会社　阿部印刷
〒020-0873　盛岡市松尾町２－２
電話（019)624-2242

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008